

構造特記仕様書 2020年度版

§1 一般事項

選択項目は●印を適用し、●印が無い場合は●印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図

4)仕様書 (● 公共建築協会 ● 日本建築家協会)
5)日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6 (最新版とする)

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に(●含む ●含まない)

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ●構造図 ●設備図)による。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方向	構造計算ルート			
X	○ルート1	●ルート2	●ルート3	●
Y	○ルート1	●ルート2	●ルート3	●

2-2 鉄筋の継手
構造計算ルート別による主筋及び、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
● 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定(以下令73条の仕様規定)
● 日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
● 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向ルートを3及び限界耐力計算の場合は、令第73条の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事、土工事

3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ● 根切り土の中の良土 ● 搬入良土
盛土 ● 根切り土の中の良土 ● 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 ● 場内地均し ● 場外搬出処分(●自由 ●指定場所)

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場所	捨てコンクリート厚さ	※(1)		厚さ
		A: 砕石	B: 割栗石	
基礎	独立布	* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150
	ベタ	* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150
基礎梁		* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150
土間スラブ		* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150
土間コンクリート	屋内	* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150
	屋外	* 50・60・100	* A・B	* 60・100・150

注(1)アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2)端部aは100以上とする。

4-2 設計地耐力 長期 150 kN/m² 短期 300 kN/m² 終局 450 kN/m²
地耐力載荷試験 ○ 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ● 行わない

4-3 地盤改良
● 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ● ソイルセメント杭
● セメント系固材攪拌 ● 圧密排水工法

[● 載荷試験 ● 軸圧縮試験] ● 行う (箇所) ● 行わない
[● 六価クロム溶出試験] ● 行う ● 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特許杭

1)杭種
● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● SC杭 t mm ● ● ● ●
● PRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● IV種
● 節杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●

2)工法
● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
● 埋込み工法 ● プレボリングセメントミルク注入工法
● プレボリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液 ● あり ● なし
● 中盤拡大根固め工法(認定工法)
● 回転埋設根固め工法(認定工法)

3)杭径、設計耐力、本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考
()					
()					
()					

4)杭の構成は設計図による。

5)杭頭補強
● かが筋 ● スタッド溶接 ● 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1)工法
● アースドリル工法 ● 拡底アースドリル工法
● リバース工法 ● オールケーシング工法(●ベント工法 ●)
● BH工法 ●

2)杭径、設計耐力、本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考
()						
()						
()						

3)杭先端深さ ● GL- m ● 杭リストによる ● 杭伏図による

4)孔壁測定 (2方向)
● 行う (●全数 ● %) ● 行わない

5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (●普通ポルトランドセメント ● 高炉セメント B種)
鉄筋 ● D 以下 SD295 ● D 以上 SD345
● D 以上 SD390
鋼管(リブ付) ● SKK400 ● SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [● 試験杭 ● 試験掘] ● 行う (本) ● 行わない
2) 載荷試験 ● 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ● 行わない
3) SL塗布 ● 行う ● 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種類	径	継手
● SD295	D 16 以下	● 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
● SD345	D 19 以上	● 重ね継手 ● ガス圧接 ● 溶接継手
● SD390	D 以上	● ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手(級)
● SD490	D 以上	● ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手(級)
● 溶接金網		● 重ね継手
● 高強度せん断補強筋	● 1275級 ● 785級 ● 685級	● フック加工 ● スパイラル ● 工場溶接

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
● 抜き取り検査
○ 引張り試験(JISZ3120)
1 検査ロットにつき ○3 本 ○ 原則 柱・梁の径毎に3本
● 超音波探傷試験(JISZ3062) ● 熱間押抜き試験
1 検査ロットにつき ● 30 箇所 ●
○ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1 検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ● ①一般 ● ②地反力を受ける ● ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 l₂の採用 大梁・小梁 ● D' (梁有効成) ○ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ● min(D', L₂) ○ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設後に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)

1)セメント ● 普通ポルトランドセメントJISR5210 ● 高炉セメントB種 ● 低熱ポルトランドセメントJISR5210 ●

2)粗骨材 ● 砂利 ● 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材
最大径(mm) ● 20 ● 25 ● 40

3)設計基準強度(N/mm²)

箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	スランプcm	備考
捨てコンクリート	● 普通	● 18 ● ●	15	
土間コンクリート	● 普通	● 18 ● ●	15	
基礎・地中梁	● 普通	● 21 ● 24 ● ●	15	
1階柱壁R階床梁	● 普通	● 21 ● 24 ● ●	18	
	● 普通	● 21 ● 24 ● ●		
	● 普通	● 21 ● 24 ● ●		

※注1.土間コンクリートを柱・梁等と同時に打ち込む場合は、躯体の強度とする。

6-2 混和材 ● AE減水剤 ● 高性能AE減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材
注1.混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇所	基礎、基礎梁	一般	備考
スランプ cm			
水セメント比 %			60以下
単位水量 kg/m ³			185以下
単位セメント量 kg/m ³			270以上

※注1.スランプは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
※ 昭56建告第1102号第2の強度試験方法に準拠すること。

1)骨材 [○ 塩分含有量 ○ アルカリシリカ反応性] ● 行う ● 行わない
2)フレッシュコンクリート [○ スランプ ○ 空気量] ● 行う ● 行わない
3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ● 行う ● 行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ● 行わない
5)マスキングのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ● 行わない
6)単位水量測定 ● 行う ○ 行わない

6-5 調査(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度Fd
● 短期(18) ○ 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)
調査管理強度 Fm=Max(Fc, Fd) + mSn 構造体強度補正値: mSn=3~6N/mm² (暑中間期: mSn=6N/mm²)
材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≥Fm+1.73σ F≥0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

コンクリートの材齢による場合	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下	梁下
	15℃以上	3日		
5℃以上	5日	5日	25日	28日
0℃以上	8日	8日	28日	

圧縮試験による場合 5N/mm² 0.85Fcまたは12N/mm² 設計強度

6-7 住宅性能表示
劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する

6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁他
一般構造用圧延鋼材	● SS400 ●						
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A ● SM400A ●						
建築構造用圧延鋼材	● SM400B ● SM490B ● SM400C ● SM490C ●						
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490 ● BCR295 ●						
冷間成形角形鋼管	● BCP235 ● BCP325 ● SHC400B ● SHC400C ●						
熱間成形角形鋼管	● SHC490B ● SHC490C ● STK400 ● STK490 ●						
一般構造用炭素鋼管	● STKN400 ● STKN490 ●						
一般構造用軽量形鋼	● SSC400 ●						
建築構造用圧延棒鋼	● SMR400 ●						

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類	使用箇所
トルシア形高力ボルト	● S10T 全般
JIS形高力ボルト	● F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● FBT 母材が亜鉛メッキされていない部分
超高力ボルト	● S14T 屋内環境

7-3 普通ボルト、アンカーボルト
1) 材質 ● SS400 (M 以上) ● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490(ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ● 使用する ● 使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長さ(mm)			使用箇所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●			
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●			
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●			

7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相当したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相当したものとす。
スカラップ形状 ● スカラップ工法 ● ノンスカラップ工法

7-6 7-7 継手

	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ● 高力ボルト ● 現場溶接	
ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ● 高力ボルト ● 現場溶接	

7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤ、入熱量及びバス開温度等の仕様については鉄協協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ● 行う ● 行わない
3) A種検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、工事監理者の承諾を受けた者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート(単位 mm)
1) 床用 高さ ● 板厚 ●
2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●
3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形板 タイプ
4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

7-10 塗装(工場塗 ● 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ● クレン ● プラスト
2)

適用	塗料		種別	標準膜厚
屋外 室内	●	●		
	● 鉛、クロムフリ-さび止め	JIS K 5674	● 1種 ● 2種	30 μm
	● 水系さび止めペイント	JASS 18 M-111		30 μm
	● 変性エポキシ樹脂プライマー	JASS 18 M-109	● 1種 ● 2種	40 μm
	● 有機ジンクリッチプライマー	JIS K 5552	● 2種	15 μm
	● 構造物用さび止めペイント	JIS K 5551	A種	30 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
5) 高耐食メッキ鋼板(t3.2mm以下) ● 用いる ● 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ● 行う ● 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるOIV検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程(同解説)2018」により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜き取り方法及び抜き取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii. 抜き取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii. 大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合個数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜き取り検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b) 現場溶接の場合
i. 全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場内の、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	M	R	J	

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック
1) 種類 ● A種 ● B種 ● C種 ●
2) 厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2 ALC パネル
1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁 ●
2) 厚さ mm ● 75(80) ● 100 ● 120(125) ● 150 ● 175
3) 外壁取り付け構法

方向	構法	使用箇所	備考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ●

方向	構法	使用箇所	備考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4 PCa板
1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根
● PCa板単独 厚さ mm ● ●
● 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備考

2) 外壁 厚さ mm ● ●

§9 設備工事構造特記仕様書

令第129条の2の3の事項 ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

● 建築物に設置する建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
■ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとして、
■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支を設けたものを除き、90cm以下とする。
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■ 建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとして、
■ 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの
□ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
(令129条の2の4 第一号による。)

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村宇東544番地	図面名称	A1 -
発注機関	栗国村教育委員会	図面番号	A3 -
摘要	図面番号 5-11		
検印	管理建築士	設計	製図
	名称 (株) 渡久山設計		
	資格者氏名 比嘉 義明		
	登録番号 一級建築士 大臣登録 第 31592号 二級建築士 事務所登録 第 104-194号		
所在地			浦添市牧港2丁目8番4号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2020年度版

- 1-1 基本事項
1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
 2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」による。
 3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
 4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。
- 1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	○	⊗	⊙	⊚	⊛	⊜	⊝	⊞	⊟	⊠	⊡
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

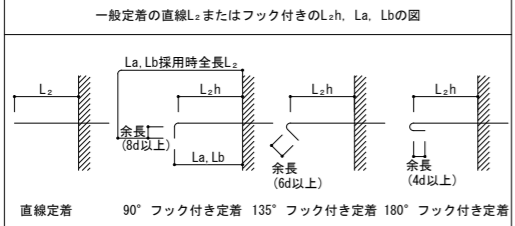
- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- ガス圧接、溶接継手表示

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋	SD295 SD345	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上
135°		あばら筋 スパイラル筋	SD390	D41以下	5d以上
90°		スラブ筋 壁筋	SD490	D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上

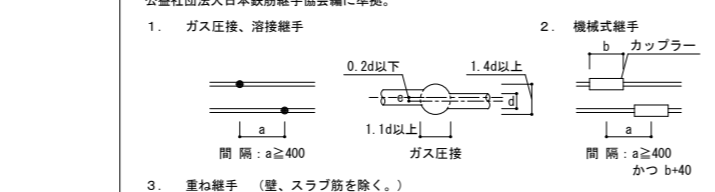
- 2-2 鉄筋の折曲げ
- 2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ
- 「JASS5(2018)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ	
		上段 直線 L ₁ 下段 フック付き L ₂	上段 直線 L ₂ 下段 フック付き L ₂	上端筋 L _b	下端筋 L _a
SD295 SD345 ()はSD345を示す	18	45d(50d) 35d	40d	30d, 20d	15d
	21	40d(45d) 30d	35d	25d, 15(20)d	(20d)
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d)	20d(25d), 15(20)d	L _s = 20d L ₁ h = 10d
	30~36	35d 25d	30d	20d, 15d	
	39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d)	15d(20d), 15d	
SD390 (SD490) (-)は適用外	21	50d(-) 35d(-)	40d(-)	30d(-), 20d(-)	20d
	24~27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d)	30d(35d), 20(25)d	(-)
	30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d)	25d(30d), 20(25)d	15d
	39~45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d)	25d(30d), 15(20)d	(-)
	48~60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d)	20d(25d), 15(20)d	



1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL₂hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

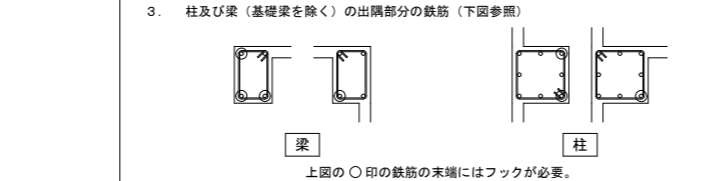
2-4 継手一般



1. ガス圧接、溶接継手
2. 機械式継手

3. 重ね継手 (壁、スラブ筋を除く。)
4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)
5. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

2-5 鉄筋のフック



4. 片持ちスラブの上端筋の先端
5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の上端筋
6. 杭基礎の基礎柱(欄干基礎及び杭2本打以上の場合)
7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋
8. 鉄筋のあき a は原則として下記による。

呼び名の数値 d の 1.5 倍以上	粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上
かつ 25 以上	※ D は最外径を示す

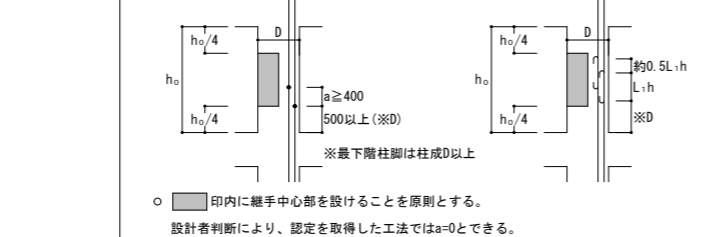
2-6 鉄筋のあき

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	非耐力壁	40(30)
	柱	40(30)
土に接する部分	梁	40(30)
	耐力壁	50(40)
	擁壁・耐力スラブ	※1※1 50(40)
	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の上り	※2※2 70(60)

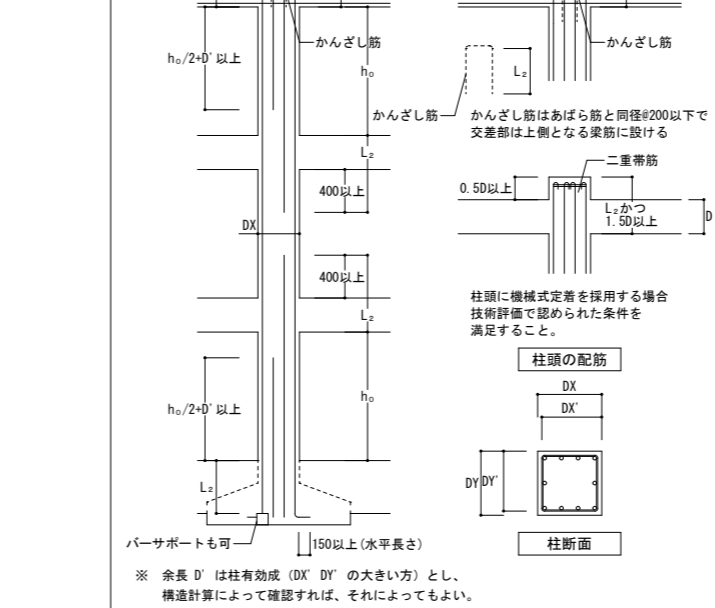
1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

3-1 主筋の継手



1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL₂hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

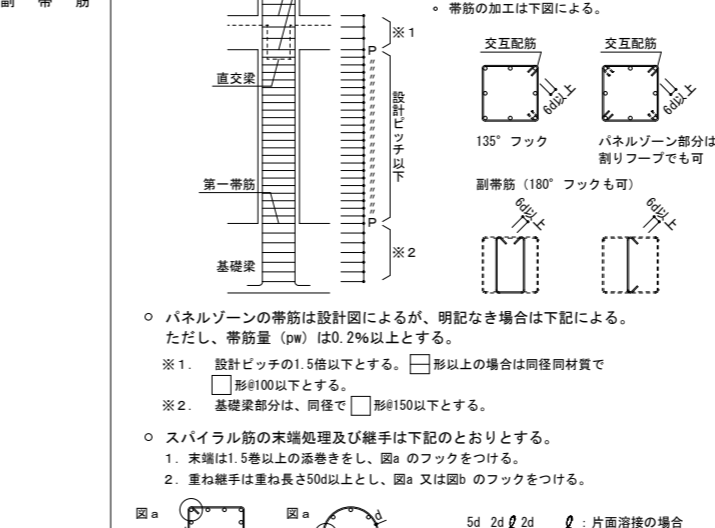
3-2 主筋の定着



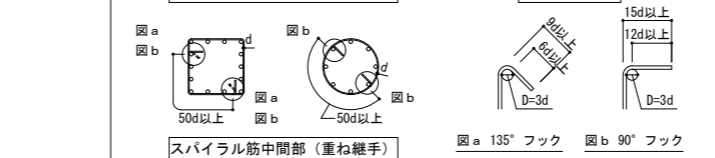
1. あばら筋及び帯筋
2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)



3-3 帯副帯筋



1. 設計ピッチの1.5倍以下とする。
2. 基礎梁部分は、同径で形#150以下とする。

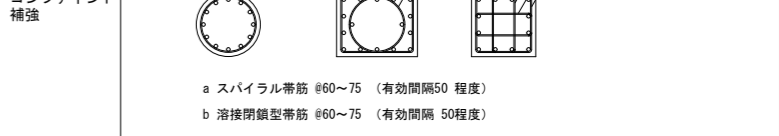


3-4 補助筋

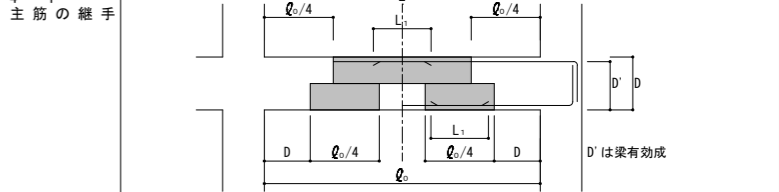


1. 補助筋はD10をピッチ600以内に割り付ける。
2. 巾止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

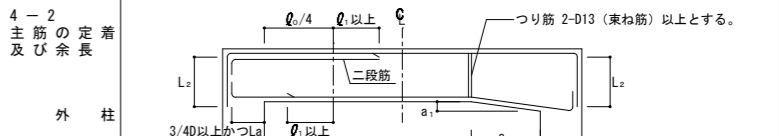
3-5 柱のコンファインド補強



4-1 主筋の継手



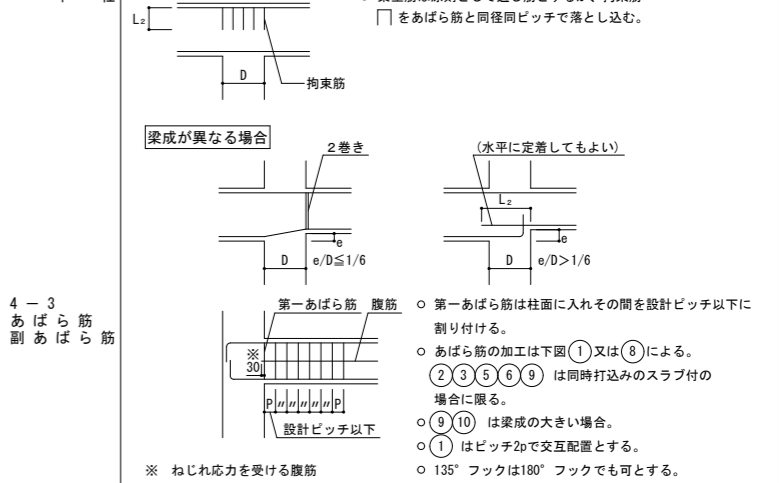
1. あばら筋及び帯筋
2. 煙突の鉄筋
3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)



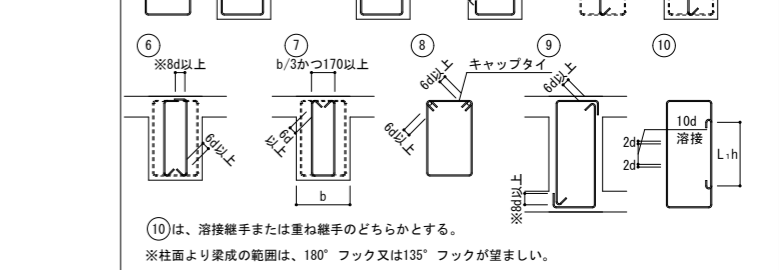
4-2 主筋の定着及び余長



4-3 あばら筋副あばら筋



1. あばら筋の加工は下図(1)又は(8)による。
2. (2)(3)(5)(6)(9)は同時打込みのスラブの場合に限る。
3. (9)(10)は梁成の大きい場合。
4. (1)はピッチ2dで交互配筋とする。
5. (135°フックは180°フックでも可とする。
6. 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

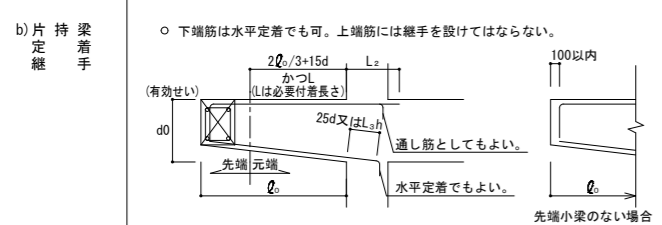
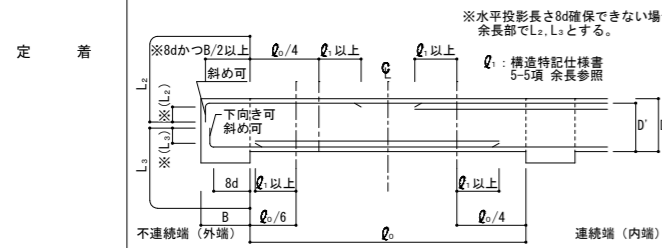
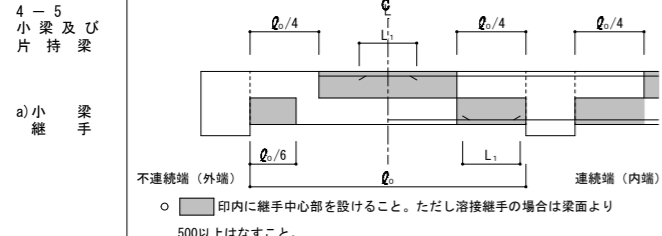
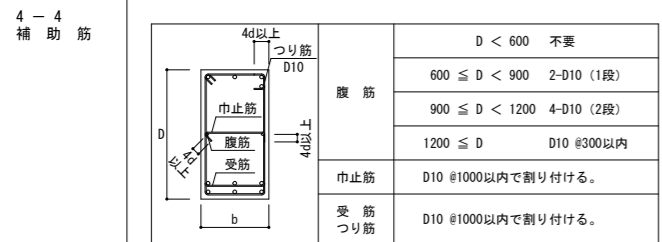


1. ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL₂とする。
2. 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
3. あばら筋の加工は下図(1)又は(8)による。
4. (2)(3)(5)(6)(9)は同時打込みのスラブの場合に限る。
5. (9)(10)は梁成の大きい場合。
6. (1)はピッチ2dで交互配筋とする。
7. (135°フックは180°フックでも可とする。
8. 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

工事名称 (仮称) 栗園村教育住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)

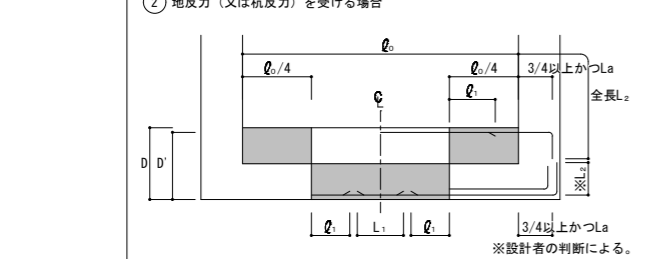
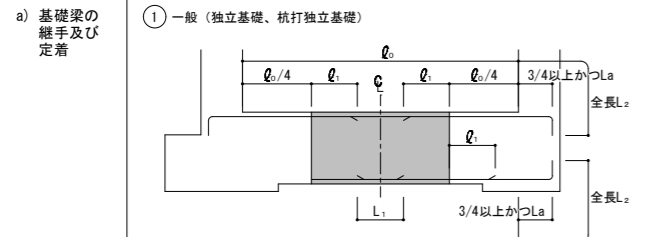
工事年度	令和5年度
工事場所	栗園村宇東544番地
発注機関	栗園村教育委員会
図面名称	鉄筋コンクリート造
縮尺	1/100
図面番号	S-12
設計者	名 称 (株) 渡久山設計
資格者氏名	比嘉 義明
登録番号	第一級建築士 大分県 第 57088号 第二級建築士 大分県 第 104-196号
所在地	浦添市牧港2丁目8番4号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2020年度版

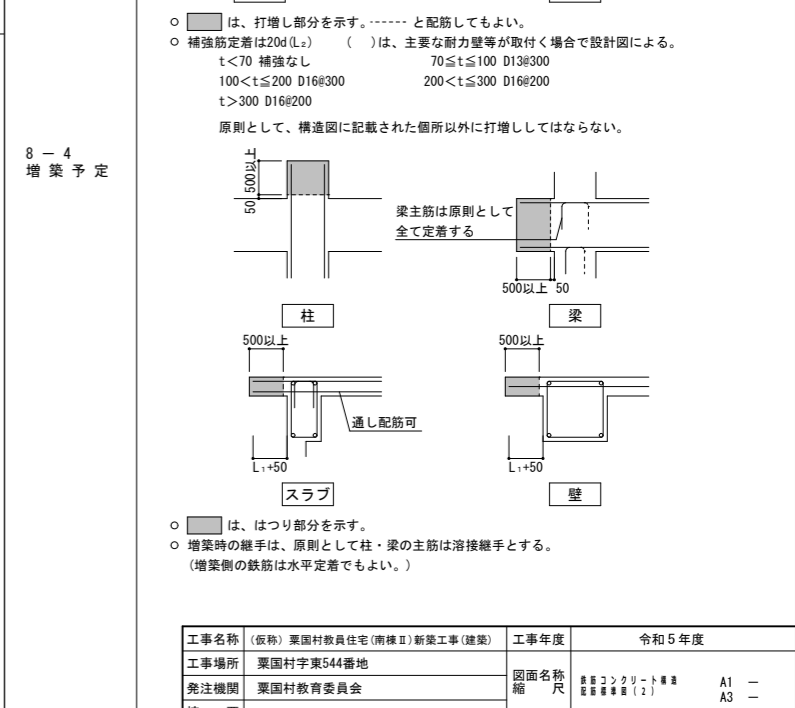
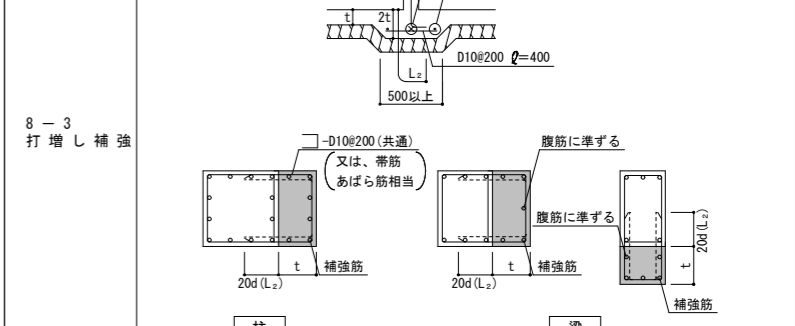
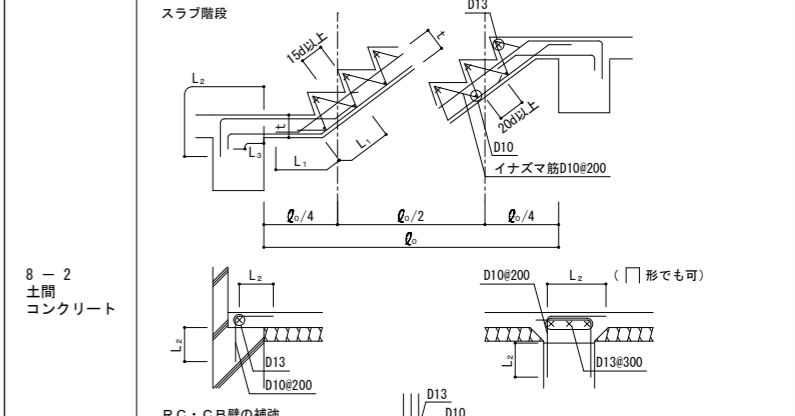
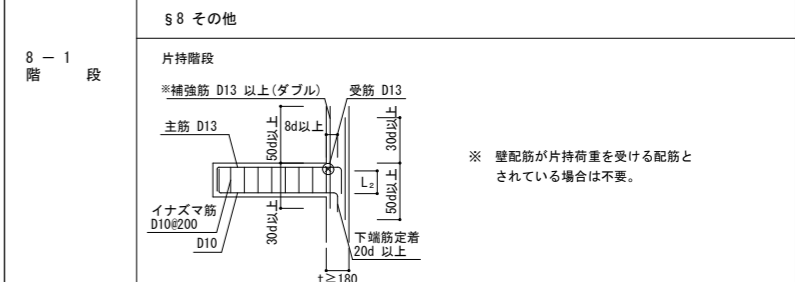
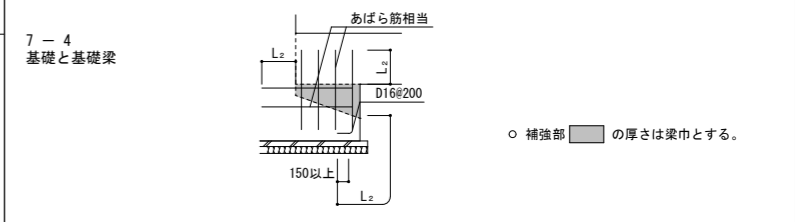
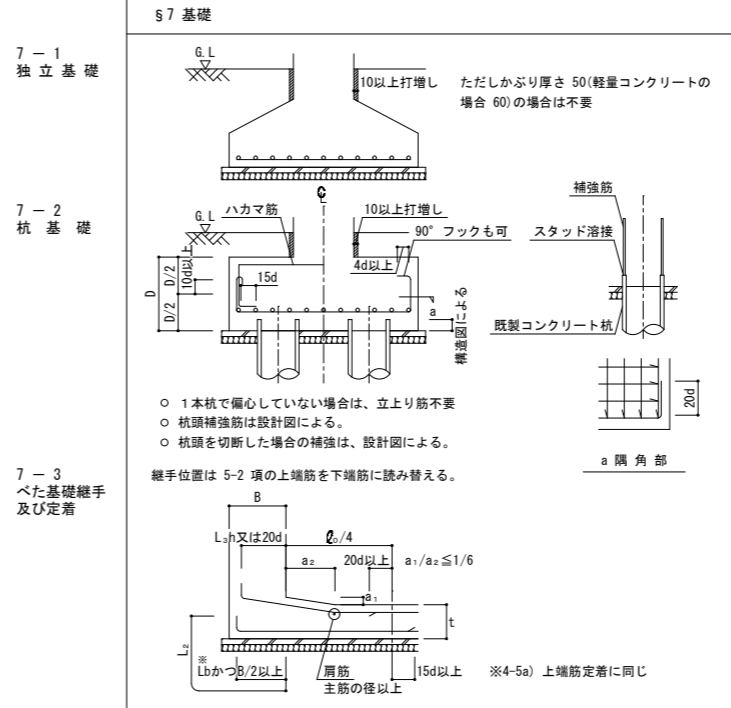
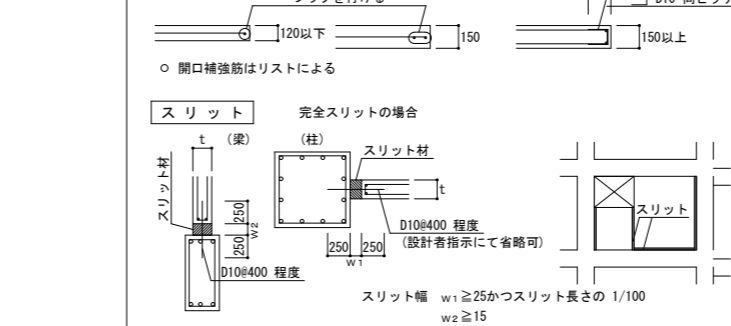
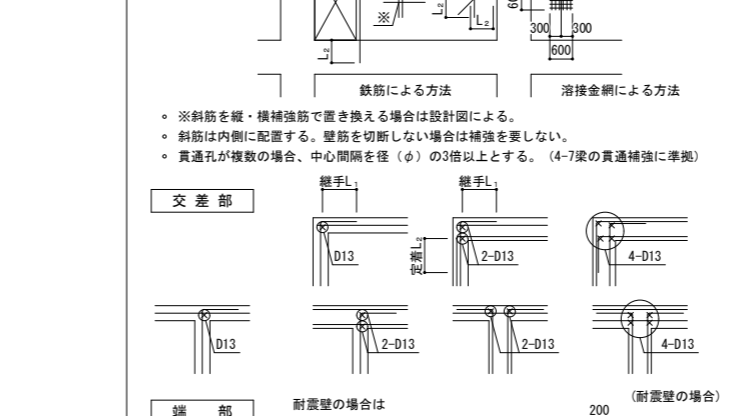
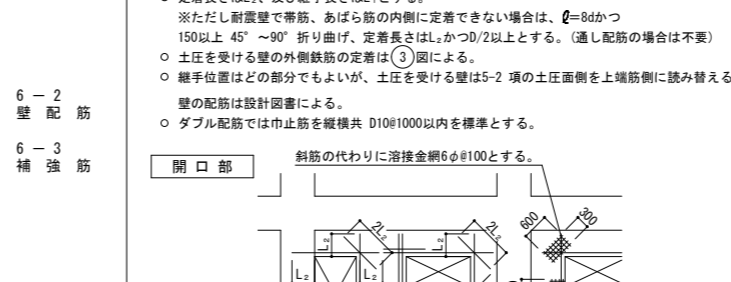
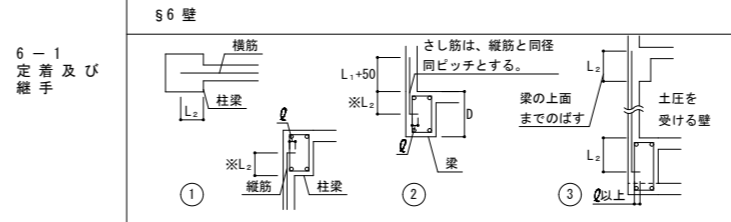
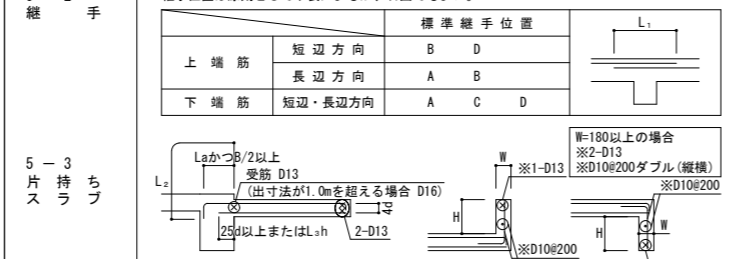
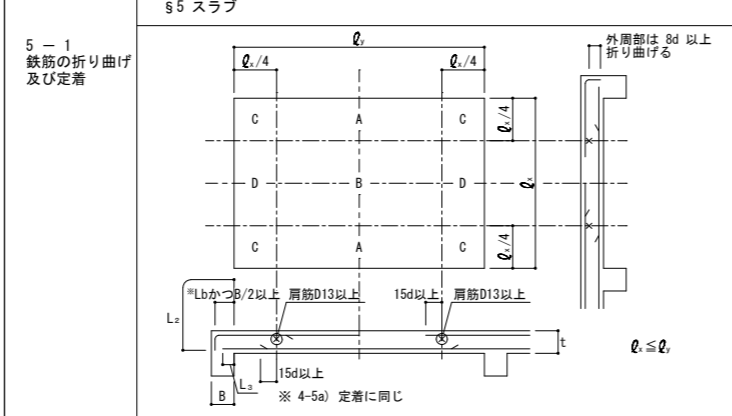
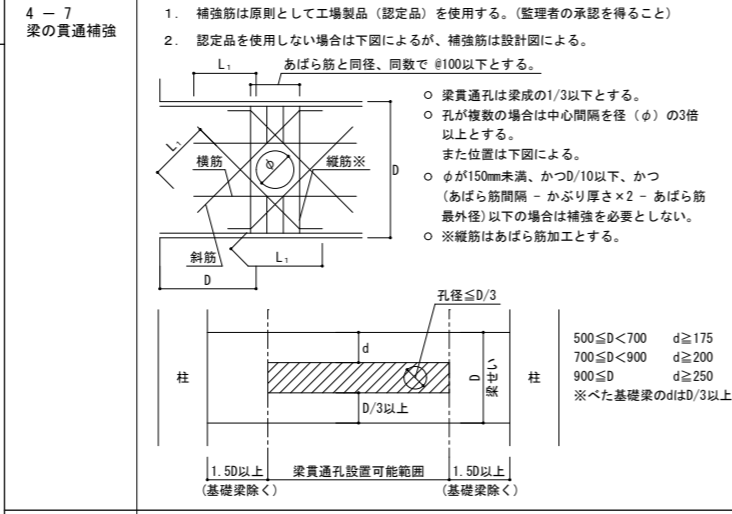
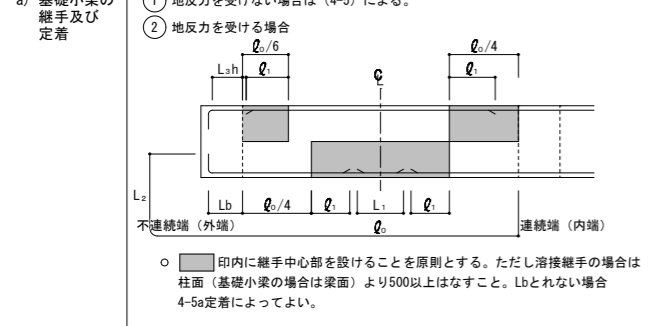


4-6 基礎梁及び基礎小梁

※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-5項および設計図に示す。余長L2は設計図に記載があれば、設計図を優先する。



③ 上載荷重が大きい場合は②の主筋継手位置を上下逆にする。



工事名称	(仮称) 栗園村教育住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗園村宇東544番地	図面名称	鉄筋コンクリート A1
発注機関	栗園村教育委員会	図面尺	縮尺 1/2
概要		図面番号	S-13
検印	管理建築士 設計 製図	名称	(株) 渡久山設計
		資格者氏名	比嘉 義明
		登録番号	一級建築士 大分県 第 25568号 一級建築士事務所登録 第104-16号
		所在地	浦添市牧港2丁目8番4号

1-1 基本事項
1-2 その他

§1 一般事項

- 1) 本標準図に記載なき事項は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図による。
- 2) 耐久性上有効な仕上げのない壁（屋内、屋外共）及び土に接する壁は10以上増打ちする。
- 3) 特記なき限り粗骨材は最大径20mmとする。

2-1 標準配筋リスト

§2 壁の標準配筋

符号	厚さ	縦筋、横筋	開口補強筋	
			縦筋	斜め筋
W12	120	D10#200 (S)	1-D13	1-D10 (1-D10)
W15	150	D10#200 (S)	Ⓐ 2-D13 (1-D13)	1-D13 (1-D10)
W A		D10#200 (D)	2-D13 (2-D13)	2-D13 (1-D13)
W B		D10#200 (D)	2-D16 (2-D13)	2-D13 (1-D13)
W C		D10#200 (D)	Ⓑ 2-D19 (2-D16)	2-D16 (1-D16)

- 1) 特記なき配筋は上表によるが、壁の厚さは§6によるか、梁形を設けることが望ましい。
- 2) ()内は開口部の高さ h が $h \leq 1000$ の場合を示す。
- 3) (S)はシングル配筋、(D)はダブル配筋を示す。
- 4) ダブル配筋の巾止筋は、D10#1000以内を標準とする。
- 5) 開口部補強の横筋（壁梁主筋）は設計図によるが、特記のない場合は縦筋に準じ、あばら筋は壁筋と同じとする。
- 6) 壁符号は設計図に記載なき場合は下表による。
- 7) 地下室のある場合は設計図による。
- 8) ① 2-D13の代わりに1-D19とすることができる。
② 2-D19の代わりに2-D16+2-D13とすることができる。
- 9) 斜め筋の配筋が困難な場合は、縦筋横筋に置き換えてもよい。

階数	W15 (W A)	W A	W15 (W A)	W15 (W A)	W15 (W A)	W12 (W A)
5階						
4階						
3階						
2階						
1階						

※特記無きは設計図による

3-1 端部の配筋

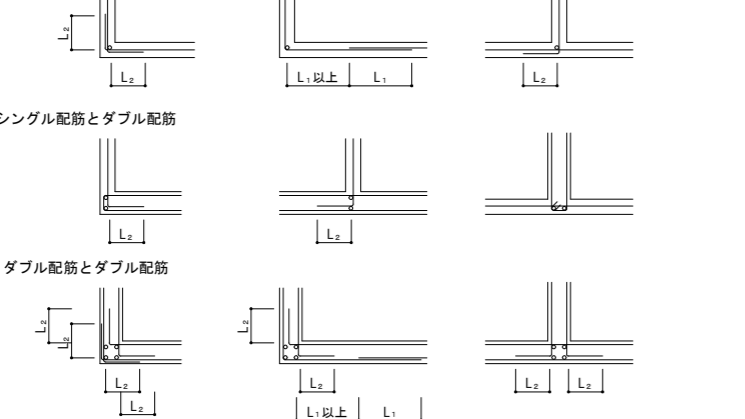
§3 壁筋の定着

$Q \leq 1500$ の壁は柱の帯筋に準じて配筋する。

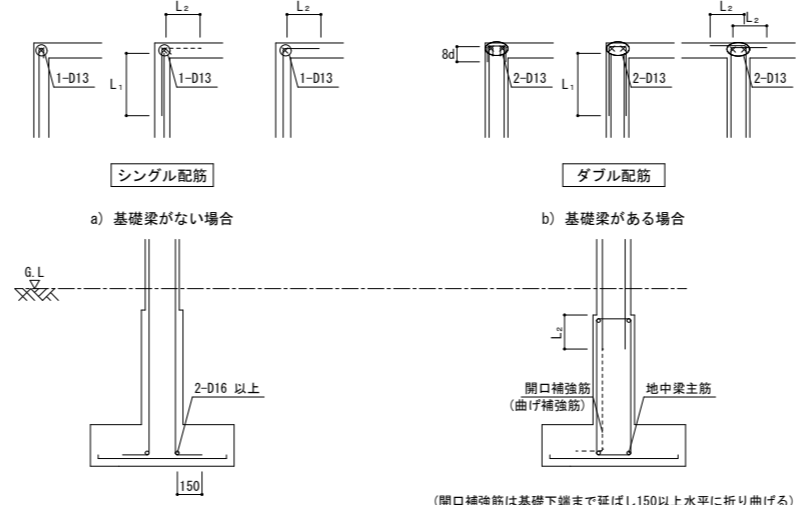


3-2 壁に対する定着

§4 壁交差部の縦補強筋と縦筋のピッチ (P)



3-3 頂部の定着
3-4 基礎に対する定着

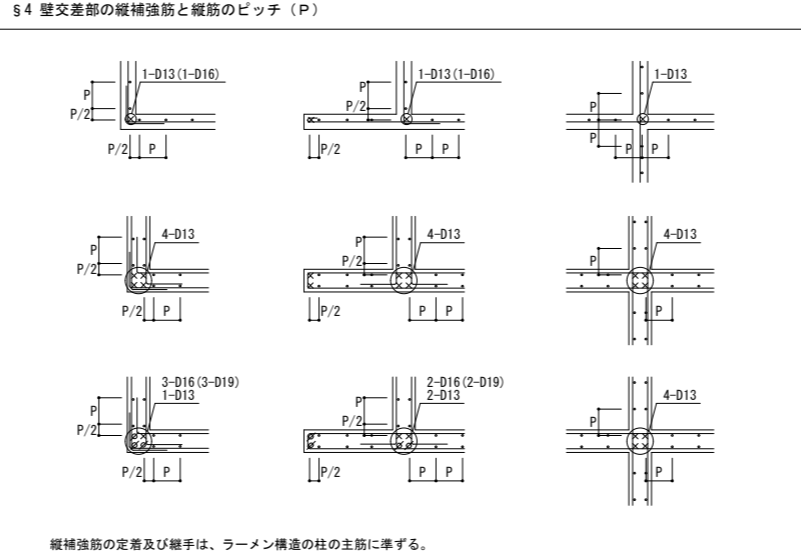


4-1 W12 (W15)

4-2 W A

4-3 W B (W C)

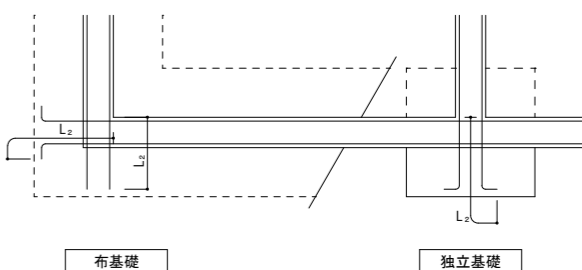
4-4 継手定着



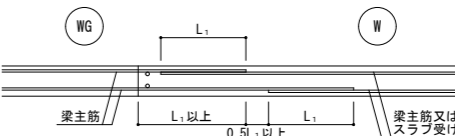
5-2 継

5-3 その他

基礎梁の下端筋の定着



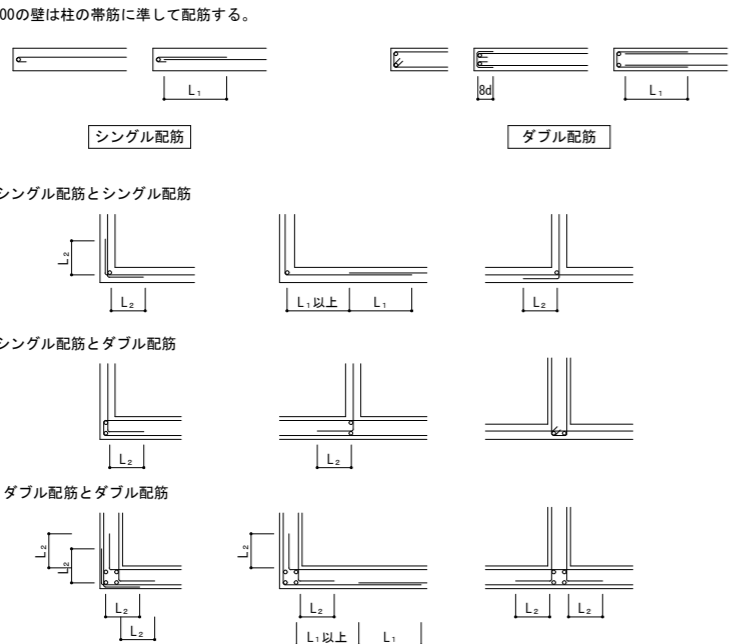
壁梁内での継手は極力設けないようにし、壁内で継手を設けるか、壁への定着とする。



- 1) 隣接の梁と同レベルの場合は通し配筋とし、壁長が非常に大きい場合の定着は、 l_1 のみとしてもよいが主筋がスラブレベルと同じ場合は5-2スラブ受け筋との継手とする。
- 2) スラブ受け筋は、ダブル配筋の場合は2-D13、シングル配筋の場合は1-D13とし壁筋の要領で定着する。又、壁梁のない場合も配筋する。
- 3) 基礎梁腹筋(中間部横筋)
単配筋 D10以上 @300以下
複配筋 D10以上 @300以下
壁梁腹筋(中間部横筋)
D10以上 @300以下かつ所定のせん断補強筋比以上とし、設計図による。

6-1 配筋タイプ

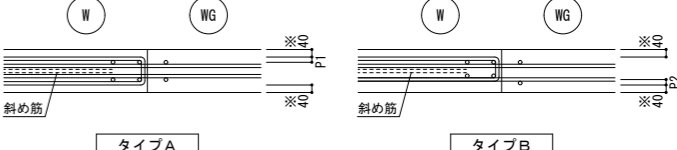
§5 壁梁の配筋



5-1 定着

6-2 タイプ別壁厚表

§6 壁厚及び壁梁の配筋詳細



壁曲げ補強筋	斜め筋	配筋タイプ別による壁厚表 (mm)						
		タイプA			タイプB			
		梁主筋	梁主筋	梁主筋	梁主筋	梁主筋	梁主筋	
D13	D10	190	195	205	D13	185	190	195
D16	D13	195	205	215	D13	190	200	205
D19	D16	200	210	220	D13	200	210	210

- 1) かぶり厚さを40mmとした場合を示す。
※ 最小かぶり厚さを30mmとした場合、壁厚は上表より20mmとする。
- 2) 主筋のあきは1.5dかつ25mm以上とし、斜め筋が配筋できる寸法とする。
- 3) 主筋と帯筋及びあばら筋の寸法関係は下表による。

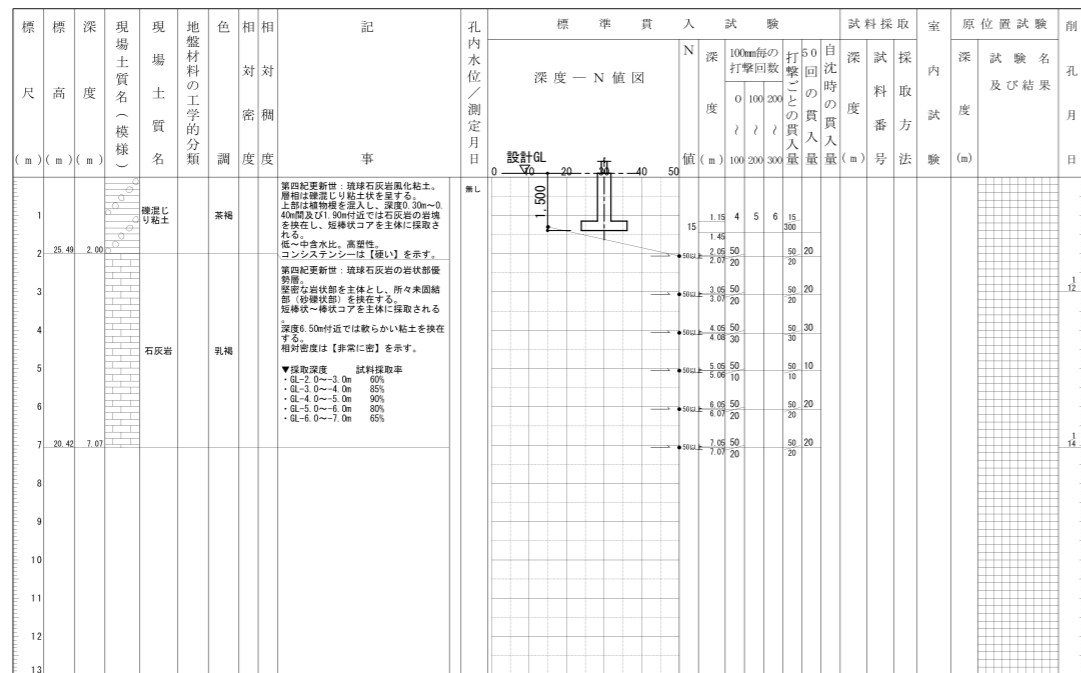
壁縦補強筋		壁梁主筋	
P1	D1	P2	D2
D13	20	D13	26
D16	22	D16	26
D19	23	D19	26

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	鉄筋コンクリート構造標準図 A1 -
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	縮尺
摘要	管理建築士 設計 製図	図面番号	S-14
検印	名称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大宮事務所 第 25558号 一級建築士事務所 第 104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 (仮称) 栗国村教員住宅 (南棟II) 新築工事 (建築)
 事業・工事名
 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	B-1	調査位置	栗国村地内	北緯	26° 34' 51.4704"
発注機関	栗国村教育委員会	調査期間	令和5年 1月12日 ~ 令和5年 1月14日	東経	127° 13' 46.1743"
調査業者名	株式会社 渡久山設計 電話 098-876-1101	主任技師	渡久山 隆夫	現場代理人	ア 赤瀬 正勝 B 青木 隆夫 C 佐藤 隆夫 D 佐藤 隆夫 E 佐藤 隆夫 F 佐藤 隆夫 G 佐藤 隆夫 H 佐藤 隆夫 I 佐藤 隆夫 J 佐藤 隆夫 K 佐藤 隆夫 L 佐藤 隆夫 M 佐藤 隆夫 N 佐藤 隆夫 O 佐藤 隆夫 P 佐藤 隆夫 Q 佐藤 隆夫 R 佐藤 隆夫 S 佐藤 隆夫 T 佐藤 隆夫 U 佐藤 隆夫 V 佐藤 隆夫 W 佐藤 隆夫 X 佐藤 隆夫 Y 佐藤 隆夫 Z 佐藤 隆夫
孔口標高	TP 27.49m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 西 180° 南
総削孔長	7.07m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用試験機	YBM-05DA
		エンジン	ヤンマーTF-90V	ポンプ	YSS500X

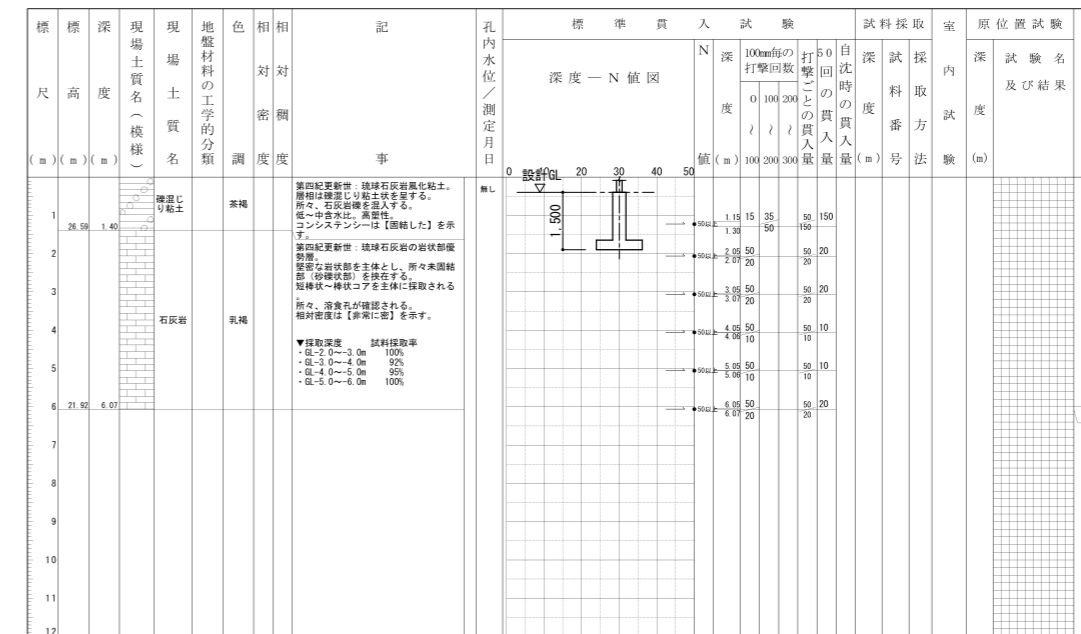


株式会社 渡久山設計

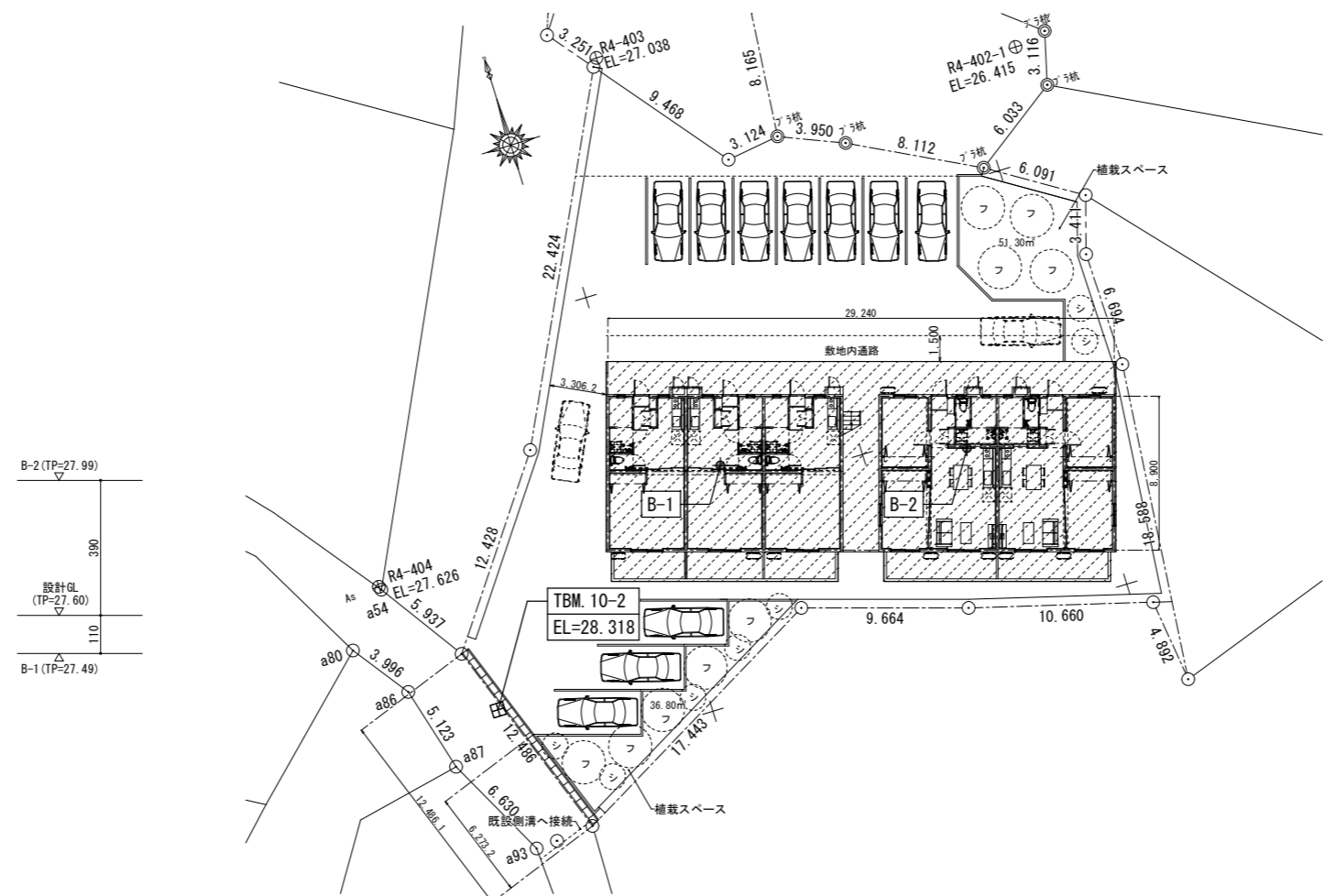
土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 (仮称) 栗国村教員住宅 (南棟II) 新築工事 (建築)
 事業・工事名
 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	B-2	調査位置	栗国村地内	北緯	26° 34' 51.3647"
発注機関	栗国村教育委員会	調査期間	令和5年 1月16日 ~ 令和5年 1月17日	東経	127° 13' 46.6669"
調査業者名	株式会社 渡久山設計 電話 098-876-1101	主任技師	渡久山 隆夫	現場代理人	ア 赤瀬 正勝 B 青木 隆夫 C 佐藤 隆夫 D 佐藤 隆夫 E 佐藤 隆夫 F 佐藤 隆夫 G 佐藤 隆夫 H 佐藤 隆夫 I 佐藤 隆夫 J 佐藤 隆夫 K 佐藤 隆夫 L 佐藤 隆夫 M 佐藤 隆夫 N 佐藤 隆夫 O 佐藤 隆夫 P 佐藤 隆夫 Q 佐藤 隆夫 R 佐藤 隆夫 S 佐藤 隆夫 T 佐藤 隆夫 U 佐藤 隆夫 V 佐藤 隆夫 W 佐藤 隆夫 X 佐藤 隆夫 Y 佐藤 隆夫 Z 佐藤 隆夫
孔口標高	TP 27.99m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 西 180° 南
総削孔長	6.07m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用試験機	YBM-05DA
		エンジン	ヤンマーTF-90V	ポンプ	YSS500X

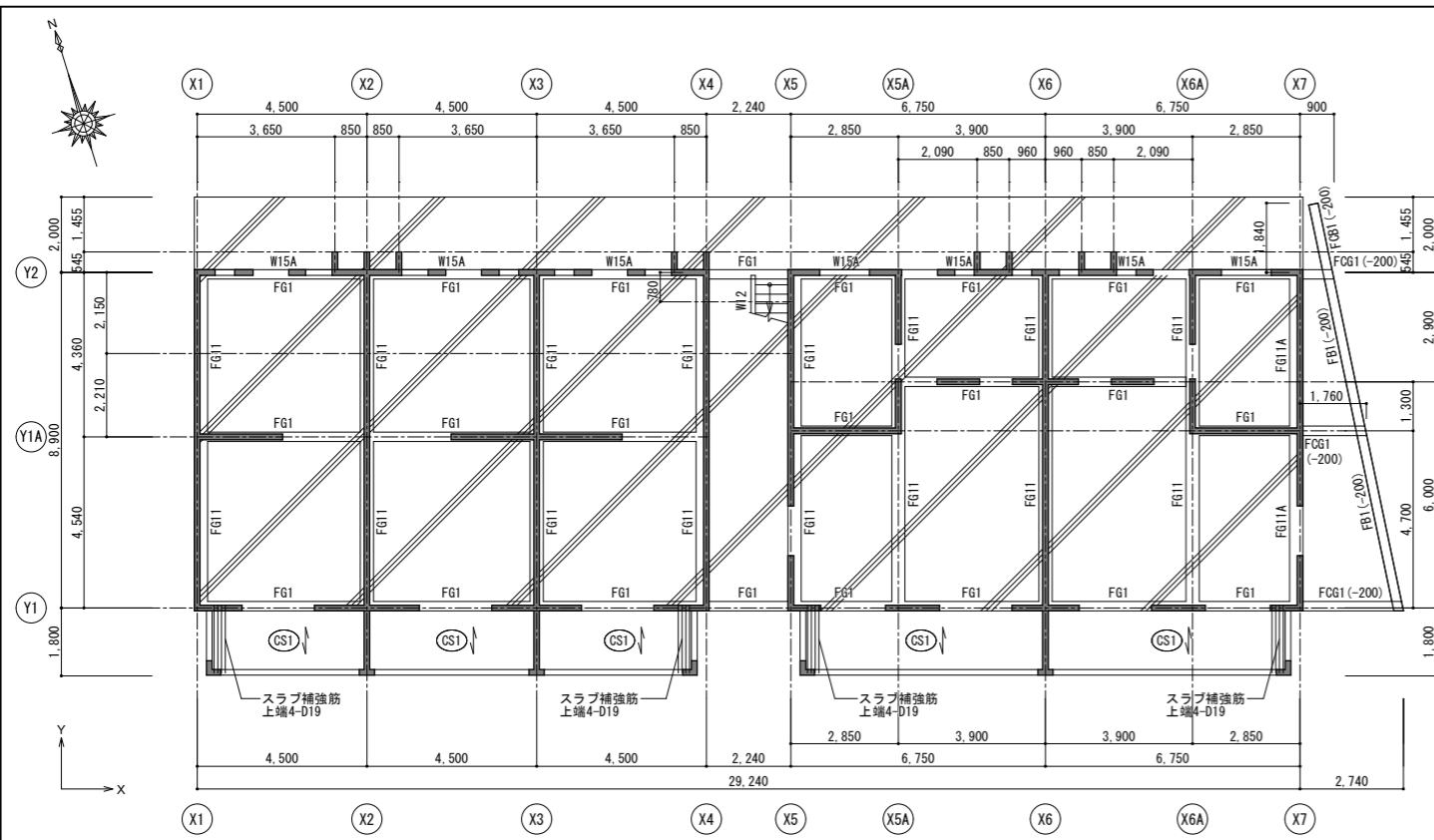


株式会社 渡久山設計



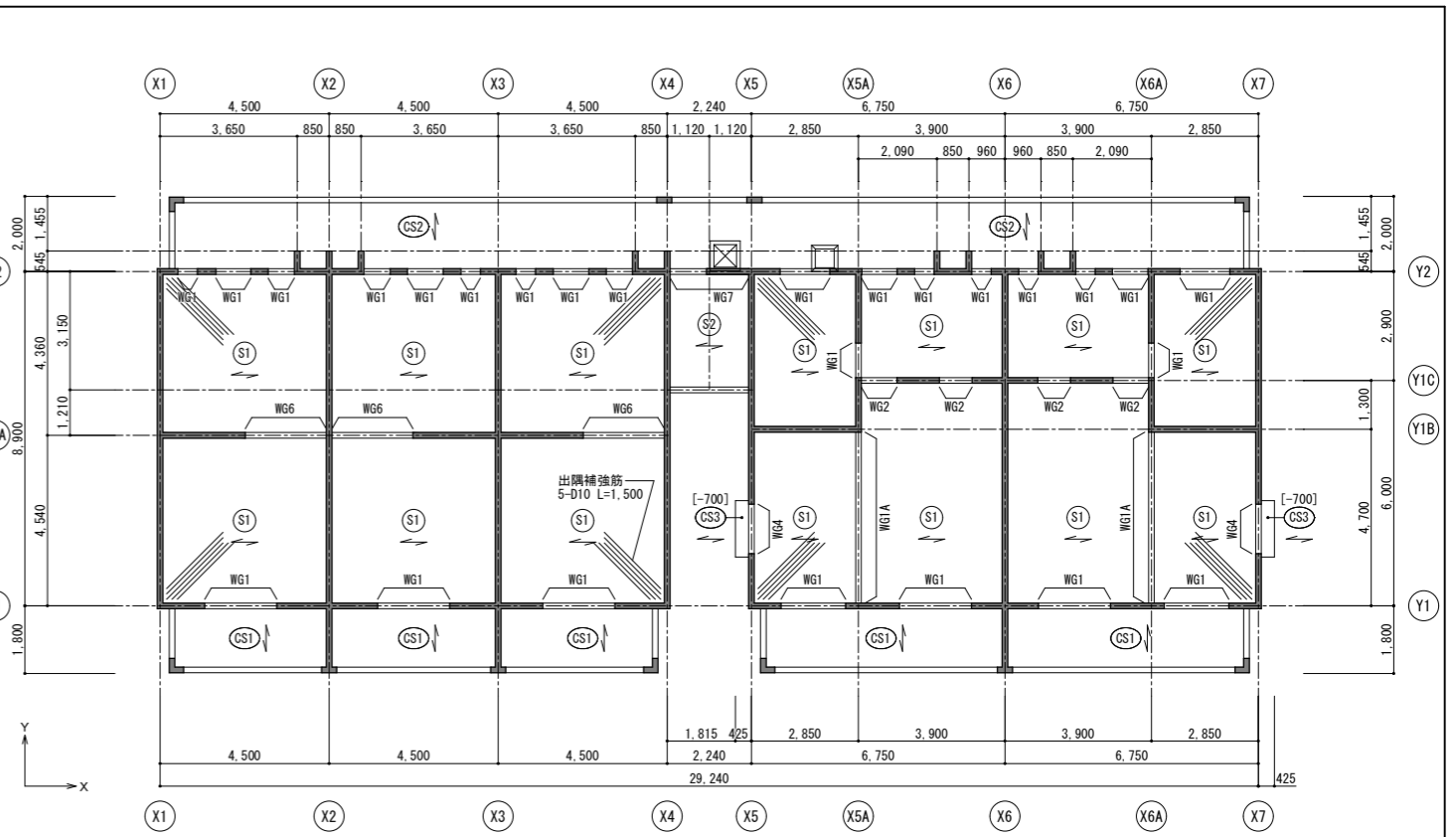
【構造設計図書】 一級建築士 第352919号 菊池 隆夫

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅 (南棟II) 新築工事 (建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	ボーリング調査・地盤調査 A1 -
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A3 -
摘要	管理建築士 設計 製 図	図面番号	S-11
検印	名称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大分県 第 55568号 一級建築士事務所 登録 第 104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	



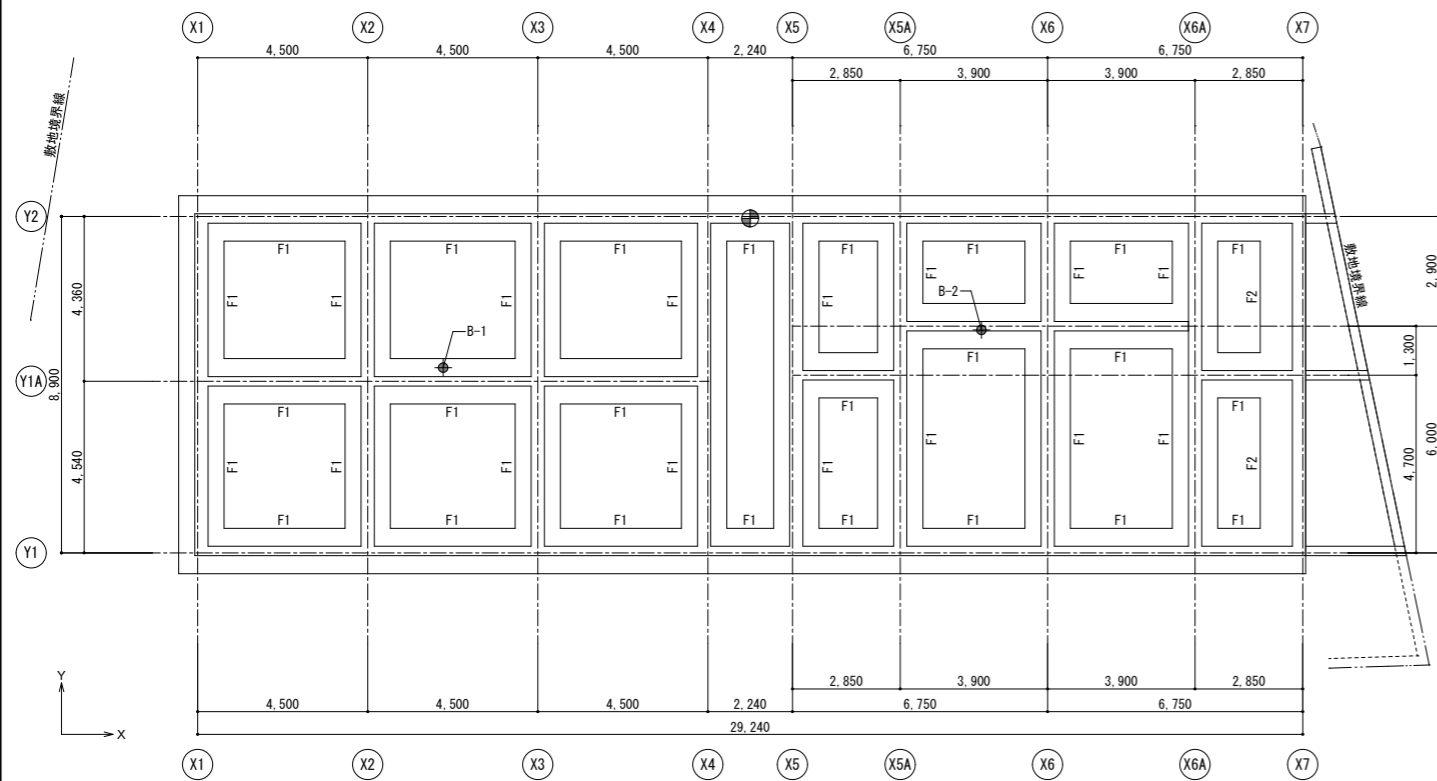
1階壁梁床伏図 S=1/100 【見下げ図】

- 注) 1. 特記なき壁はW15とする。
 2. 特記なき地中梁天端は、設計GL±0とする。
 3. ()内は、梁天端を示し、設計GLからとする。
 4. 特記なきスラブ・土間コンクリート天端は、設計GL+150とする。
 5. は、土間コンクリート(t=150, D10@200(シングル))を示す。
 6. 通り芯=壁芯とする。



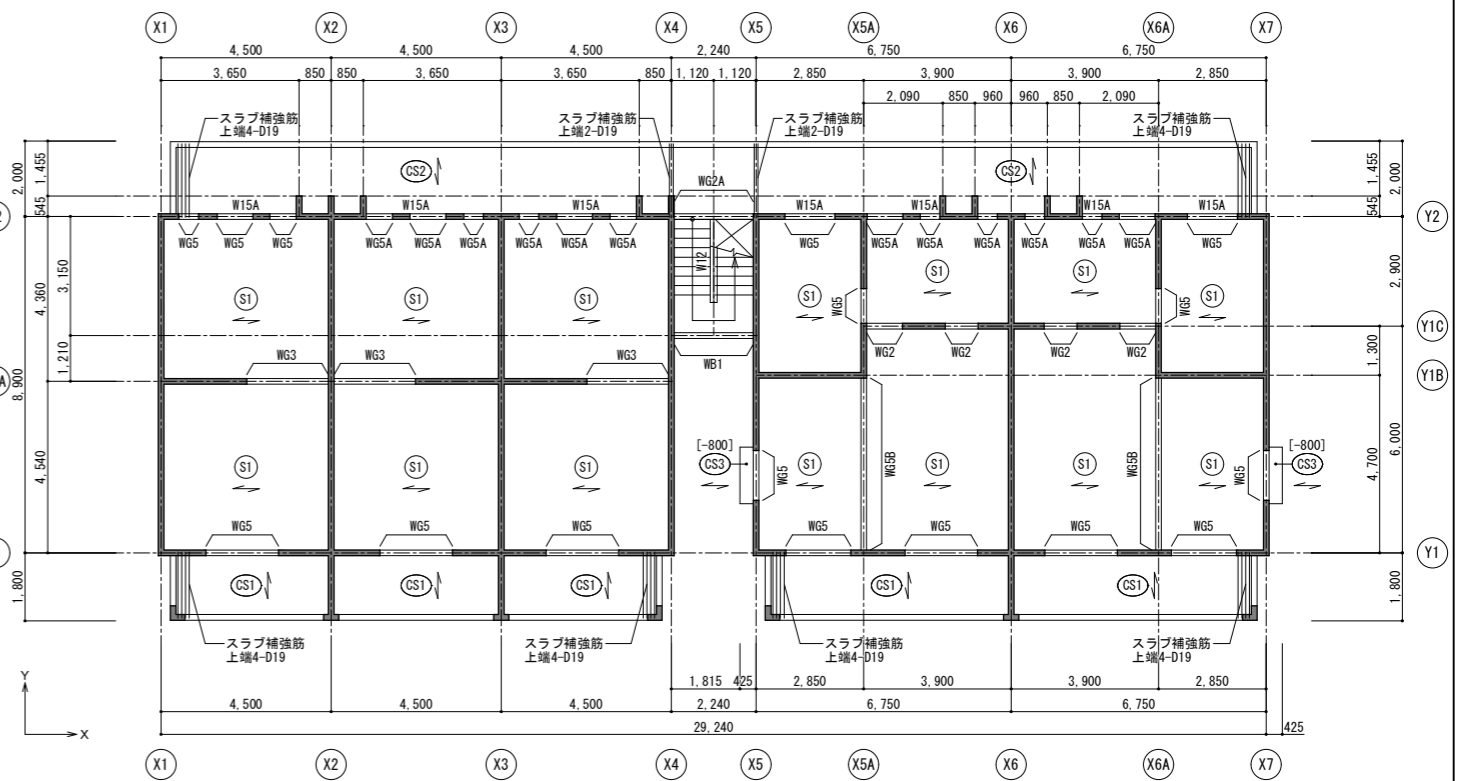
2階壁R階床梁伏図 S=1/100 【見上げ図】

- 注) 1. 特記なき壁はW15とする。
 2. 特記なき壁梁天端は、RSL±0とする。
 3. 特記なきスラブ天端は、RSL±0とする。
 4. []内は、スラブ天端を示し、RSLからとする。
 5. は、スラブの短辺方向を示す。
 6. 通り芯=壁芯とする。



基礎伏図 S=1/100 【見下げ図】

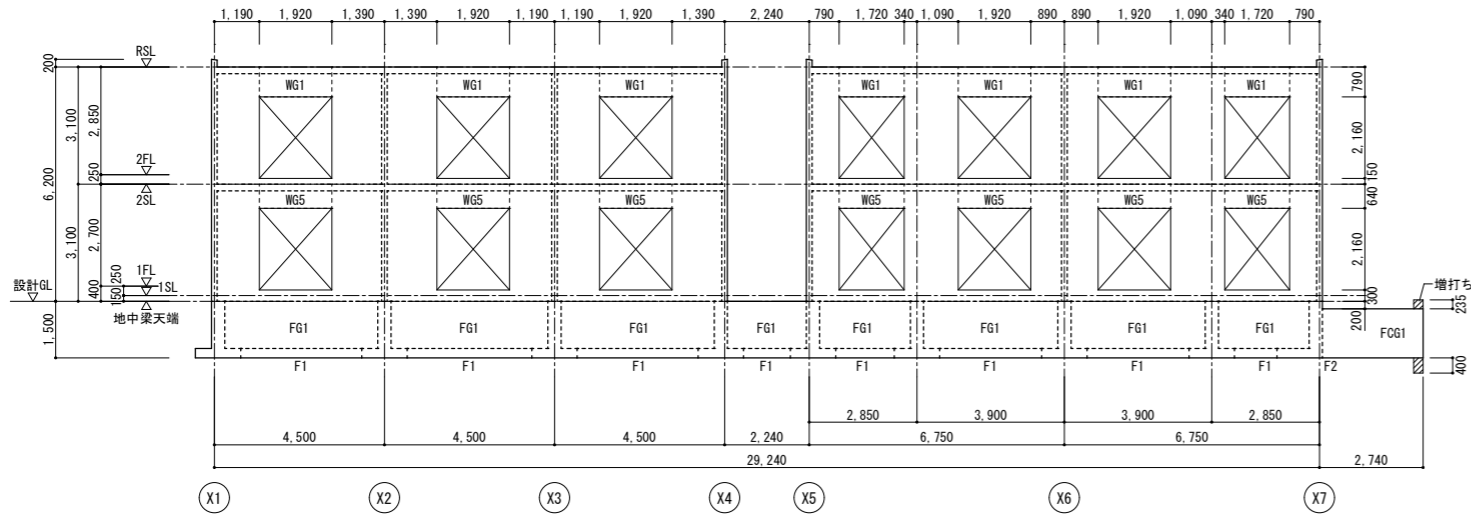
- 注) 1. 特記なき基礎下地は、設計GL-1.500とする。
 2. は、ボーリング位置を示す。
 3. は、平板載荷試験位置を示す。
 地盤の長期地耐力は、 $f_{te}=150kN/m^2$ 以上を確保すること。



1階壁2階床梁伏図 S=1/100 【見上げ図】

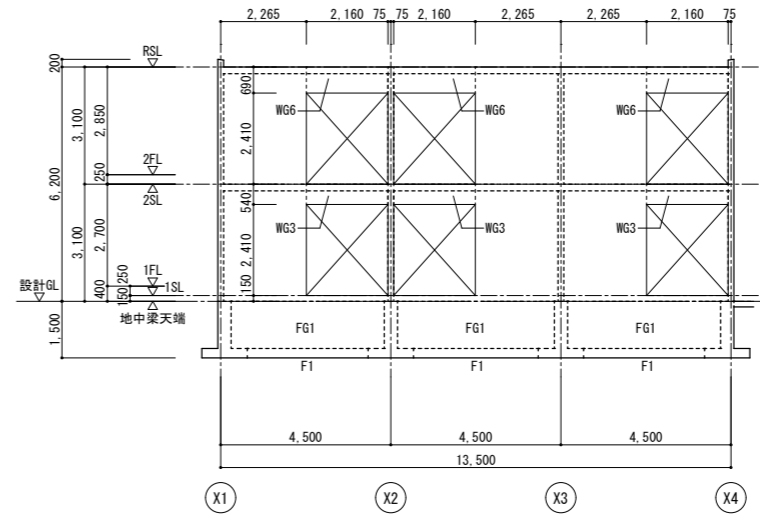
- 注) 1. 特記なき壁はW15とする。
 2. 特記なき壁梁天端は、2FL-250とする。
 3. 特記なきスラブ天端は、2FL-250とする。
 4. []内は、スラブ天端を示し、2FLからとする。
 5. は、スラブの短辺方向を示す。
 6. 通り芯=壁芯とする。

工事名称	(仮称) 栗国村教育住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	伏図
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A1 1/100 A3 1/200
摘要		図面番号	S-06
検印	管理建築士 設計 製図	名称	(株) 渡久山設計
		資格者氏名	比嘉 義明
		登録番号	大原登録 第 25588号 一級建築士事務所登録 第104-196号
		所在地	浦添市牧港2丁目8番4号



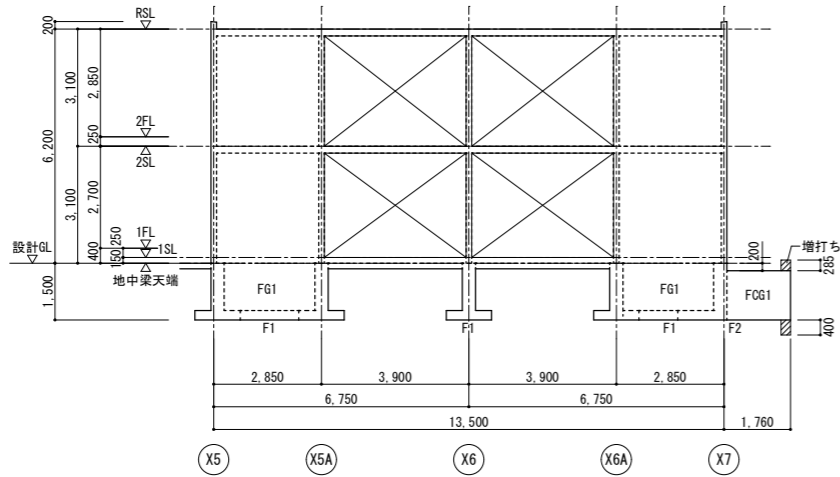
Y 1 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



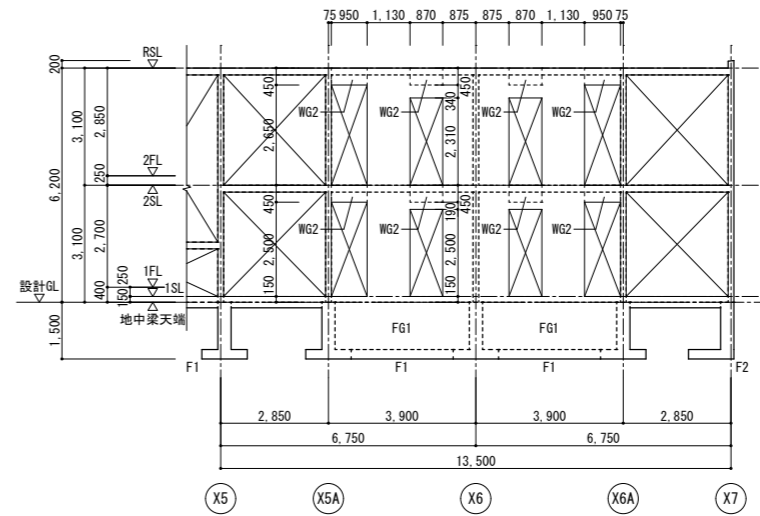
Y 1 A 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



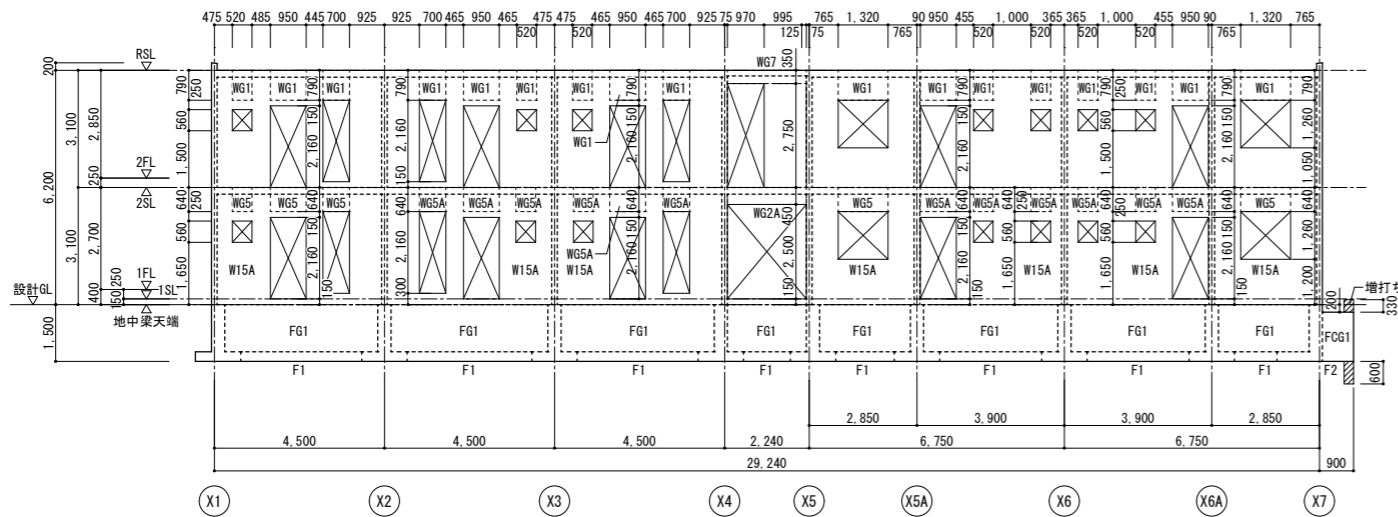
Y 1 B 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



Y 1 C 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。

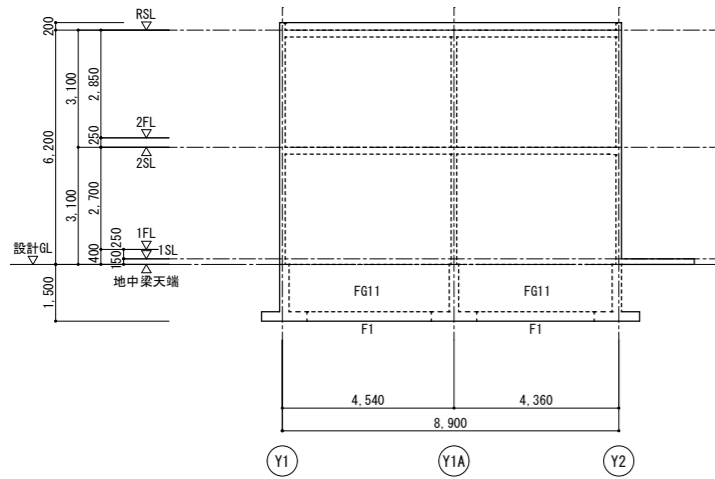


Y 2 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。

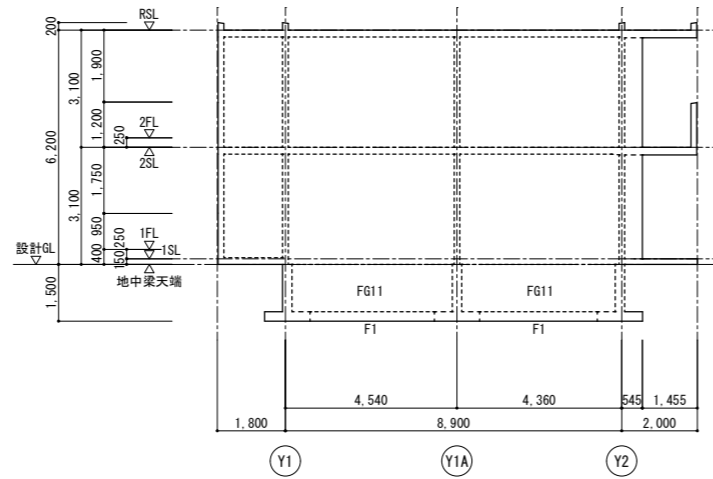
【構造設計図書の作成】 一級建築士 第352919号 菊池 隆史

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	軸組図(1)
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A1 1/100 A3 1/200
摘要	管理建築士 設計 製図	図面番号	S-07
検印	名称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大原章博 第 55558号 一級建築士事務所 松本 第 104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	



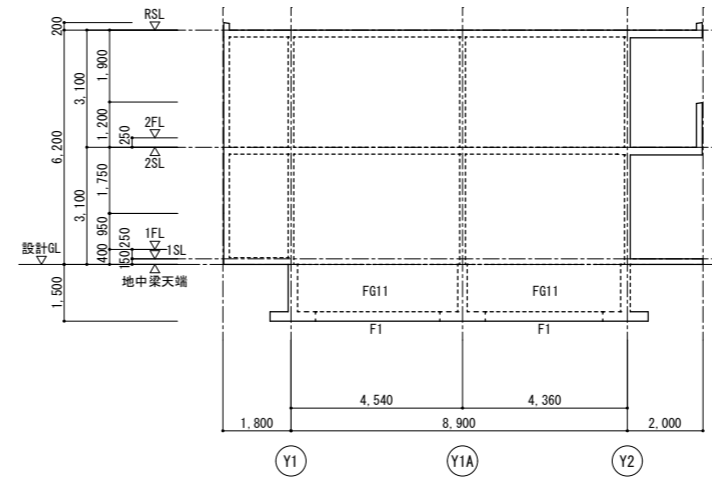
X 1 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



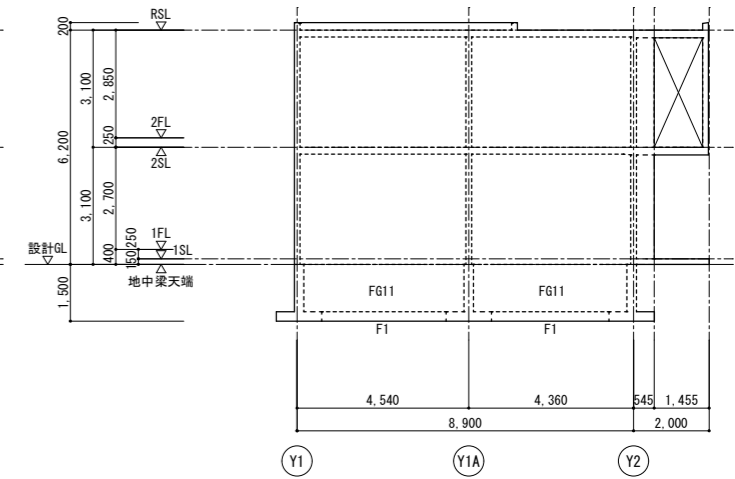
X 2 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



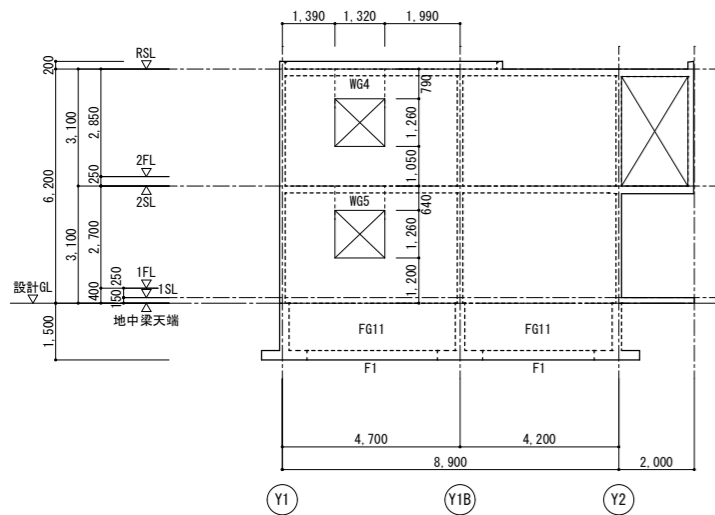
X 3 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



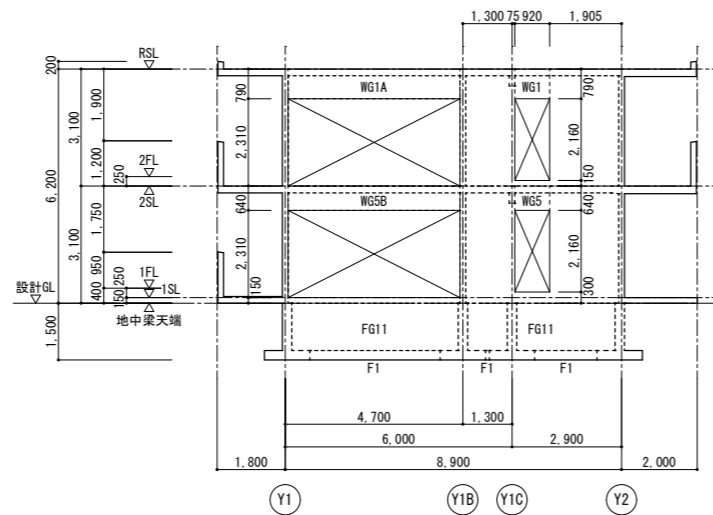
X 4 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



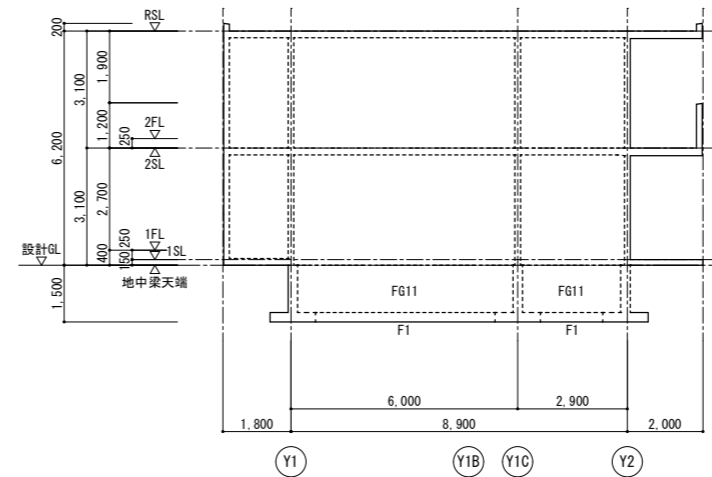
X 5 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



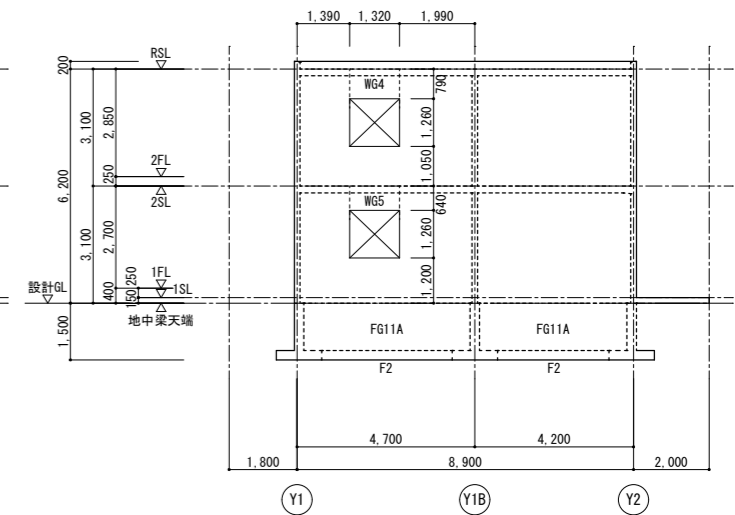
X 5 A・6 A 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。



X 6 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。

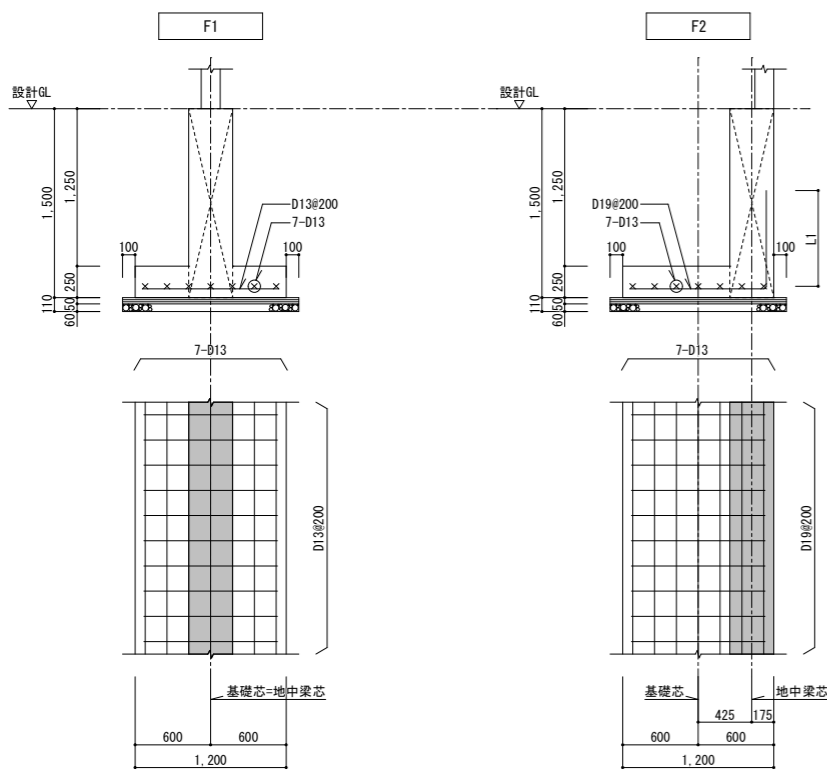


X 7 通り軸組図 S=1/100

注) 1. 特記なき壁はW15とする。

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	軸組図(2)
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A1 1/100 A3 1/200
摘要	管理建築士 設計 製図	図面番号	S-08
検印	名称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大臣登録 第 55558号 一級建築士事務所 登録 第 104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	

基礎リスト S=1/30



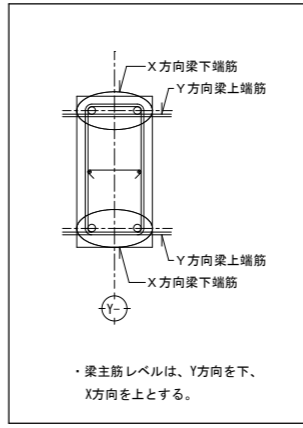
地中梁リスト S=1/30

符号	FG1	FG11	FG11A
位置	全断面		
設計GL	全断面		
断面			
上端筋	2-D19	3-D19	3-D19
下端筋	2-D19	3-D19	3-D19
S T P	□ - D10#200	□ - D10#200	□ - D10#200
腹筋	8-D10	8-D10	8-D10

※腹筋は直交部にL2定着とする。

注) 1. 巾止め筋は、D10#1,000程度とする。

地中梁・壁梁主筋要領図



地中梁リスト S=1/30

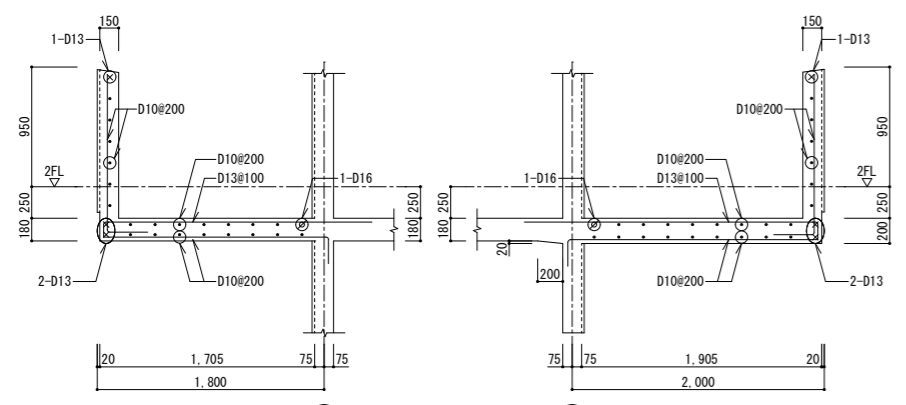
符号	FCG1	FB1・FCB1
位置	全断面	
設計GL	全断面	
断面		
上端筋	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19
S T P	□ - D10#200	□ - D10#200
腹筋	6-D10	6-D10

※腹筋は直交部にL2定着とする。

注) 1. 巾止め筋は、D10#1,000程度とする。

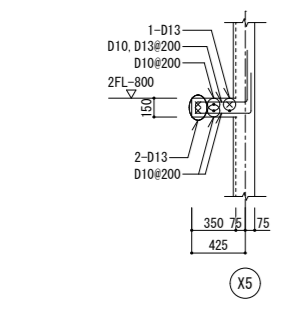
壁梁リスト S=1/30

符号	WG1	WG1A	WG2	WG2A	WG3	WG4	WG5	WG5A	WG5B	WG6	WG7	WB1
位置	全断面											
断面												
上端筋	2-D13	2-D19	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13	1-D19/1-D13	1-D22/1-D19	2-D13	2-D13	1-D13
下端筋	2-D13	2-D19	2-D13	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13	1-D19/1-D13	2-D19	2-D13	2-D13	2-D13
縦補強筋	1 - D10#150	1 - D13#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#150	1 - D10#200
中間部横筋	2-D10	2-D10	1-D10	1-D10	1-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10

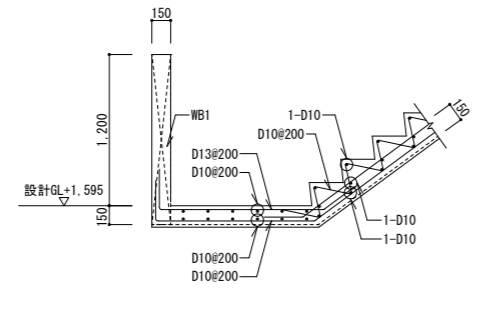


CS1配筋図 S=1/30

CS2配筋図 S=1/30



CS3配筋図 S=1/30



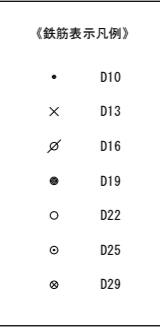
階段配筋図 S=1/30

注) 1. 水平断面とする。
2. 特記なき場合、壁筋の配筋順序は規定しない。
3. 端部筋及び交差部補強筋は、平面配筋詳細図に示す。

壁リスト S=1/30

符号	W12	W15	W15A	壁開口補強標準図
断面				
縦筋	D10#150(シングル)	D10#150(シングル)	D10#150(シングル)	
横筋	D10#150(シングル)	D10#150(シングル)	D13#150(シングル)	
開口補強横筋		1-D13	1-D13	
曲げ補強筋	1-D13	2-D13	2-D13	
巾止め筋				
備考	階段手摺壁			

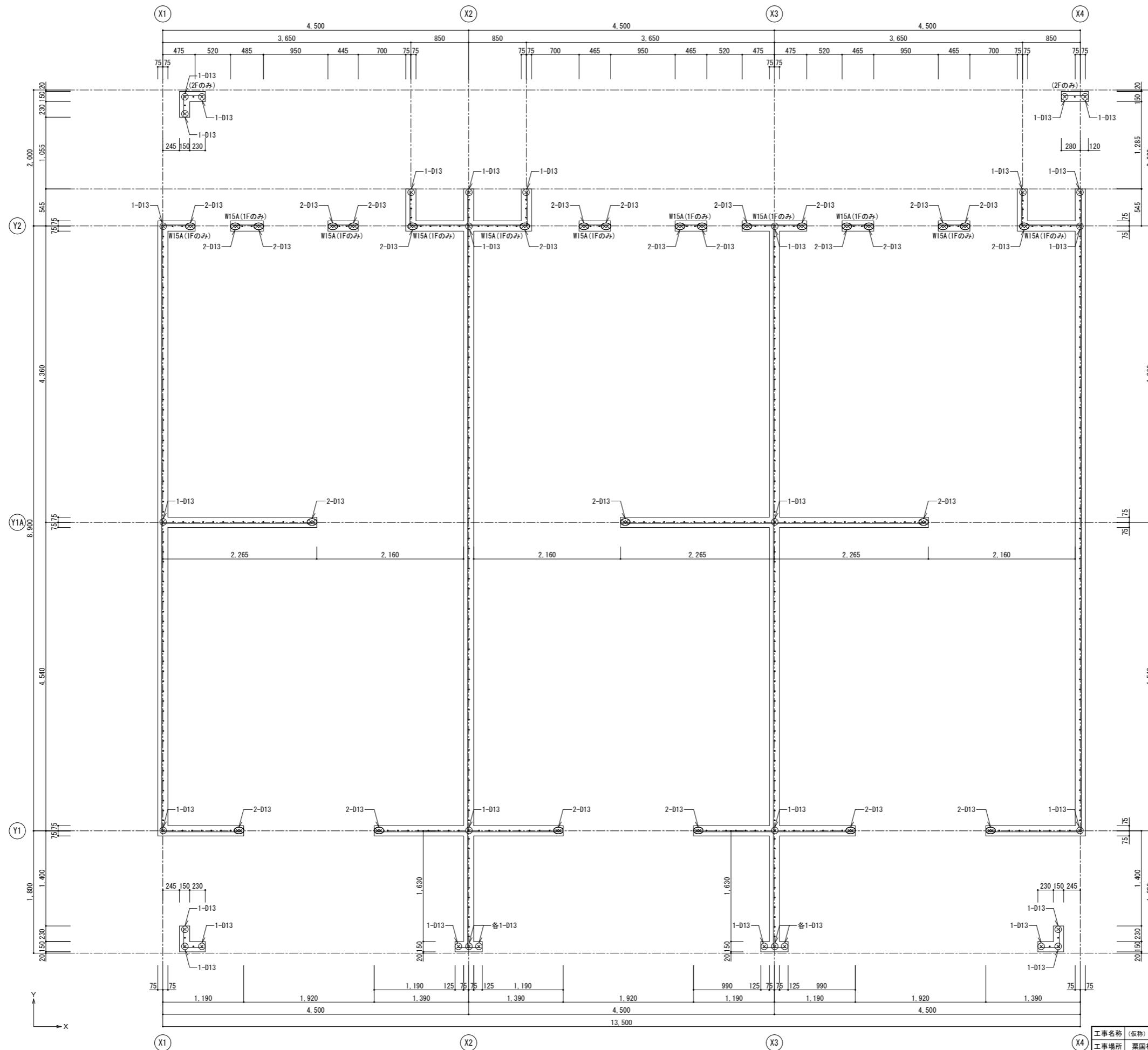
※寸法が70mm未満の場合は、開口補強横筋(上)は不要とする。



スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向配筋	長辺方向配筋	備考
S1	180	上	D10, D13#200	D10, D13#200	
		下	D10#200	D10#200	
S2	150	上	D10, D13#200	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	
CS1	180	上	D13#100	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	
CS2	200	上	D13#100	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	
CS3	150	上	D10, D13#200	D10#200	
		下	D10#200	D10#200	

工事名称	(仮称) 栗園村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗園村宇東544番地	図面名称	部材リスト
発注機関	栗園村教育委員会	縮尺	A1 1/30 A3 1/60
摘要	管理建築士 設計 製図	図面番号	S-09
検印	名称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大分県 第 25558号 一級建築士事務所 第 104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	

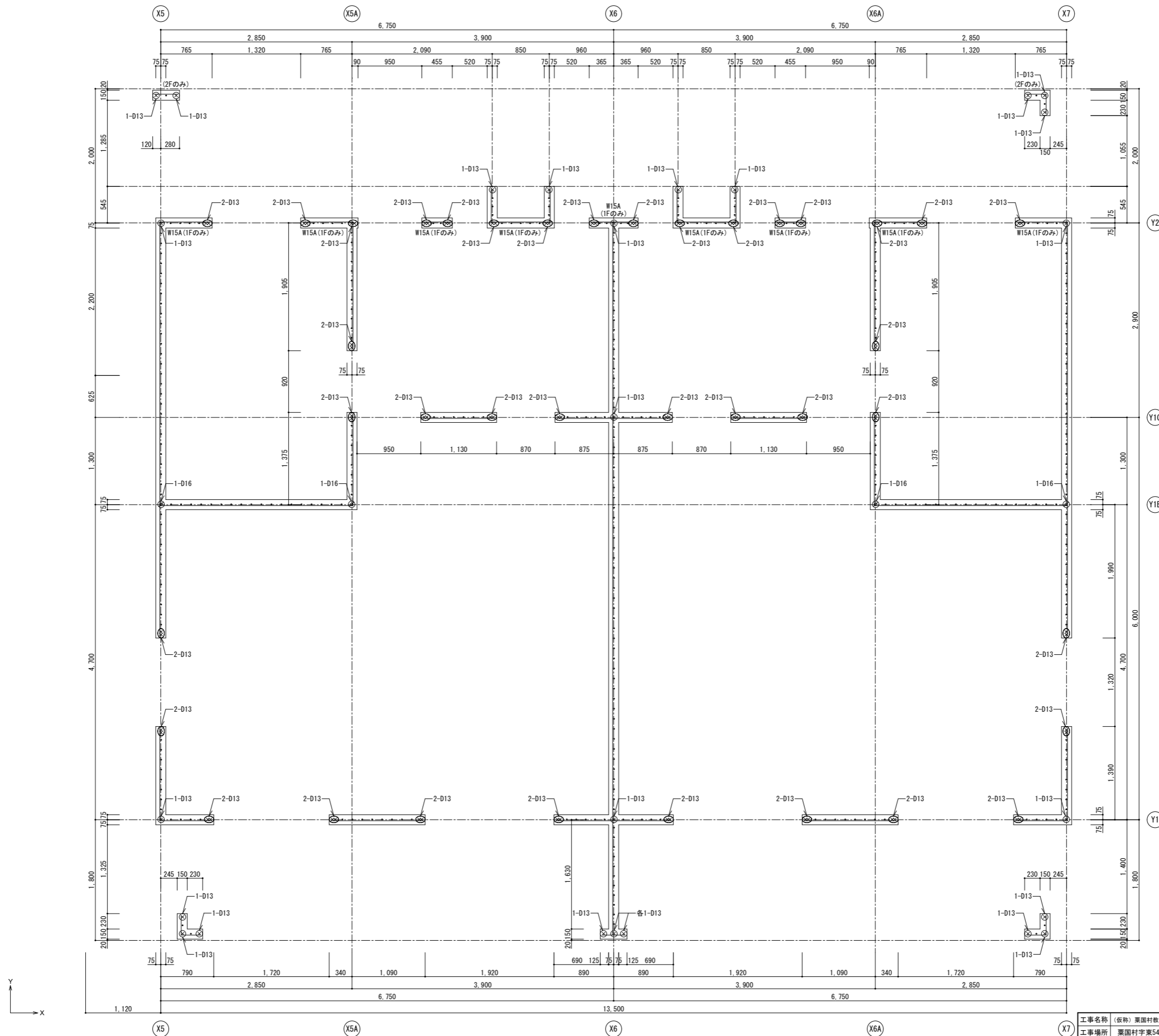


1・2階平面配筋図(1) S=1/30

- 注) 1. 特記なき壁はW15とし、配筋は下記に示す。
- ・W15 : D10@150(シングル)縦・横共
 - ・W15A : D10@150(シングル)縦
 - ・D13@150(シングル)横

【構造設計図書の作成】 一級建築士 第352919号 菊池 隆史

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	架構配筋図(1)
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A1 1/30 A3 1/60
摘要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S-10
検 印	名 称	(株) 渡久山設計	
	資格者氏名	比嘉 義明	
	登録番号	一級建築士 大臣登録 第 25558号 一級建築士事務所登録 第104-196号	
	所在地	浦添市牧港2丁目8番4号	



1・2階平面配筋図(2) S=1/30

- 注) 1. 特記なき壁はW15とし、配筋は下記に示す。
- ・W15 : D10@150(シングル)縦・横共
 - ・W15A : D10@150(シングル)縦
 - D13@150(シングル)横
 - ・KW15 : D10@150(シングル)縦・横共

【構造設計図書の作成】 一級建築士 第352919号 菊池 隆史

工事名称	(仮称) 栗国村教員住宅(南棟Ⅱ)新築工事(建築)	工事年度	令和5年度
工事場所	栗国村字東544番地	図面名称	架構配筋図(2)
発注機関	栗国村教育委員会	縮尺	A1 1/30 A3 1/60
摘要	管理建築士	図面番号	S-11
検印	設計	名称	(株) 渡久山設計
	製図	資格者氏名	比嘉 義明
		登録番号	一級建築士 大原 隆 第 25568号 一級建築士事務所 第 104-196号
		所在地	浦添市牧港2丁目8番4号